

生活困窮者支援に 必要と考えられる視点

～発達障害者への支援のあり方～

平成28年度自立相談支援事業従事者養成研修（前期）

NPO法人ふわり

(有)SNOW DREAM

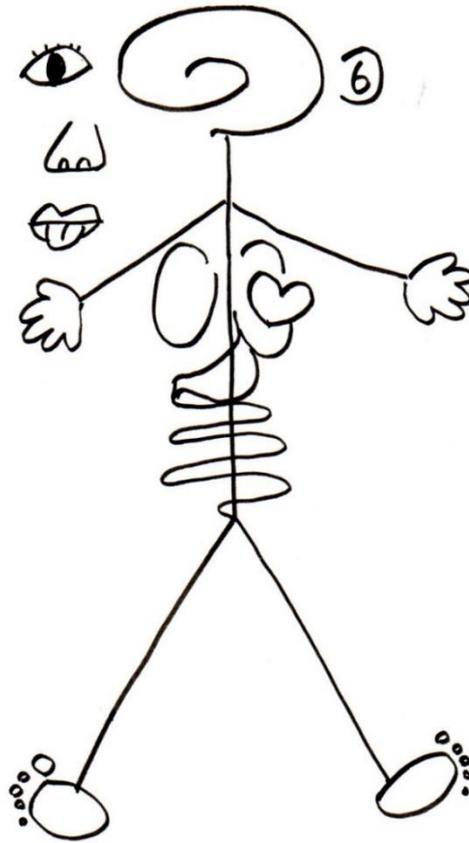
山口久美

発達障害は、様々な社会問題の一因 になっています

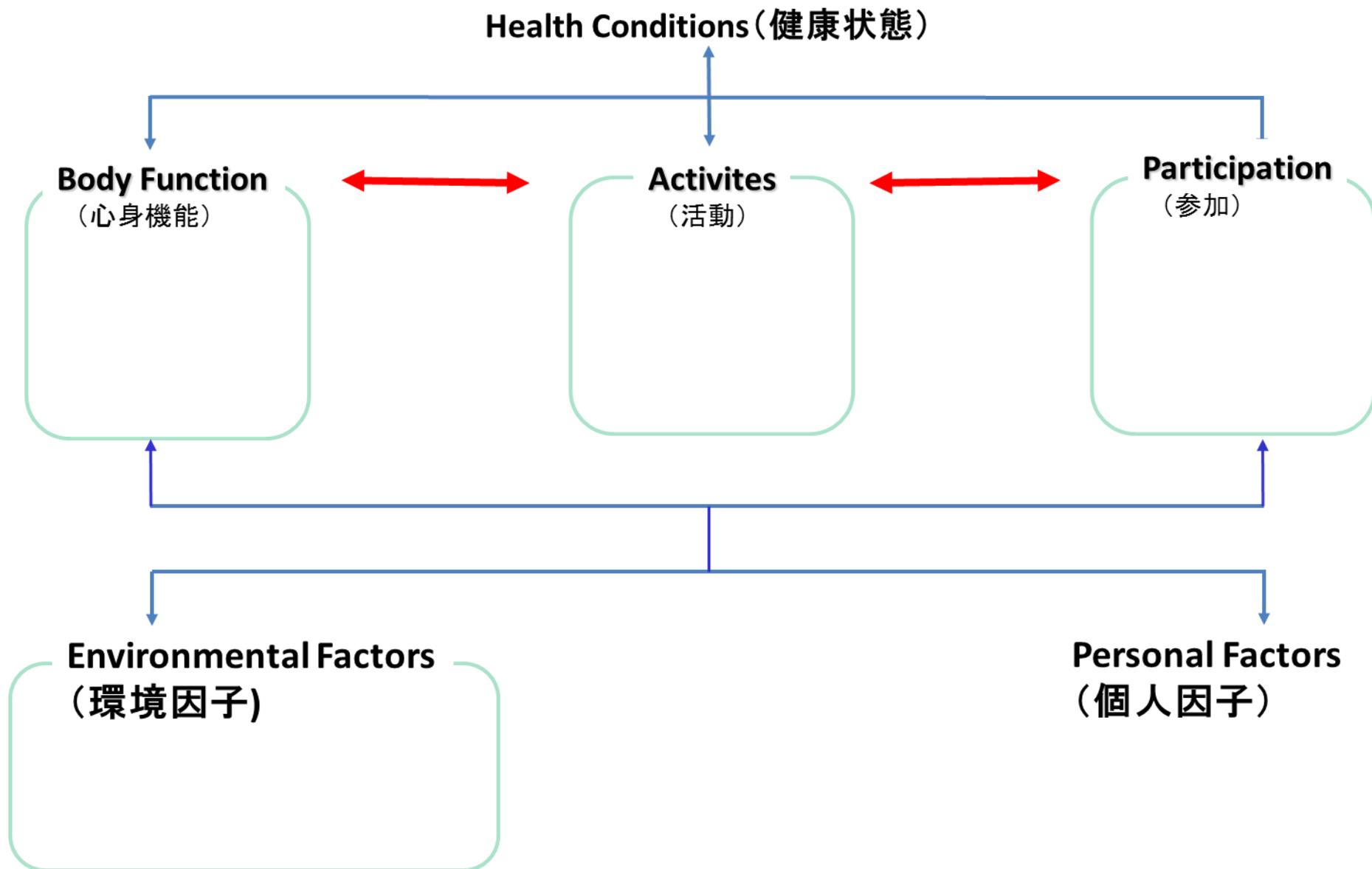
• 例えば・・・

- うつ病などの精神疾患：発達障害の二次障害が含まれる
- ニート、ひきこもり、**80-50**問題
- ゴミ屋敷
- 不安定就労
- 生活困窮
- いじめ、不登校
- 虐待、**DV**
- 犯罪被害・加害

自閉症・発達障害は 脳の情報処理の仕方の違い



ICF (國際生活機能分類) :



脳の機能障害

★発達障害

(発達障害者支援法に基づく)

- ・自閉症スペクトラム
- ・学習障害
- ・ADHD(ADD)

★様々な失認

後天的

★認知症

★高次脳機能障害

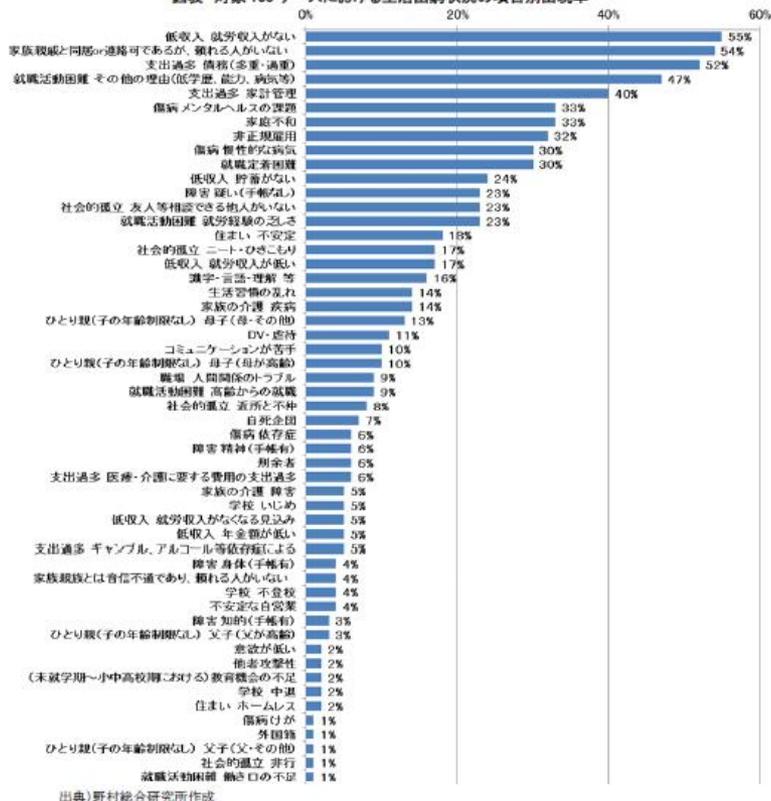
★精神障害

- ・総合失調症
- ・その他の精神疾患

自閉症スペクトラム・11の特性（ネガポジ変換シート）

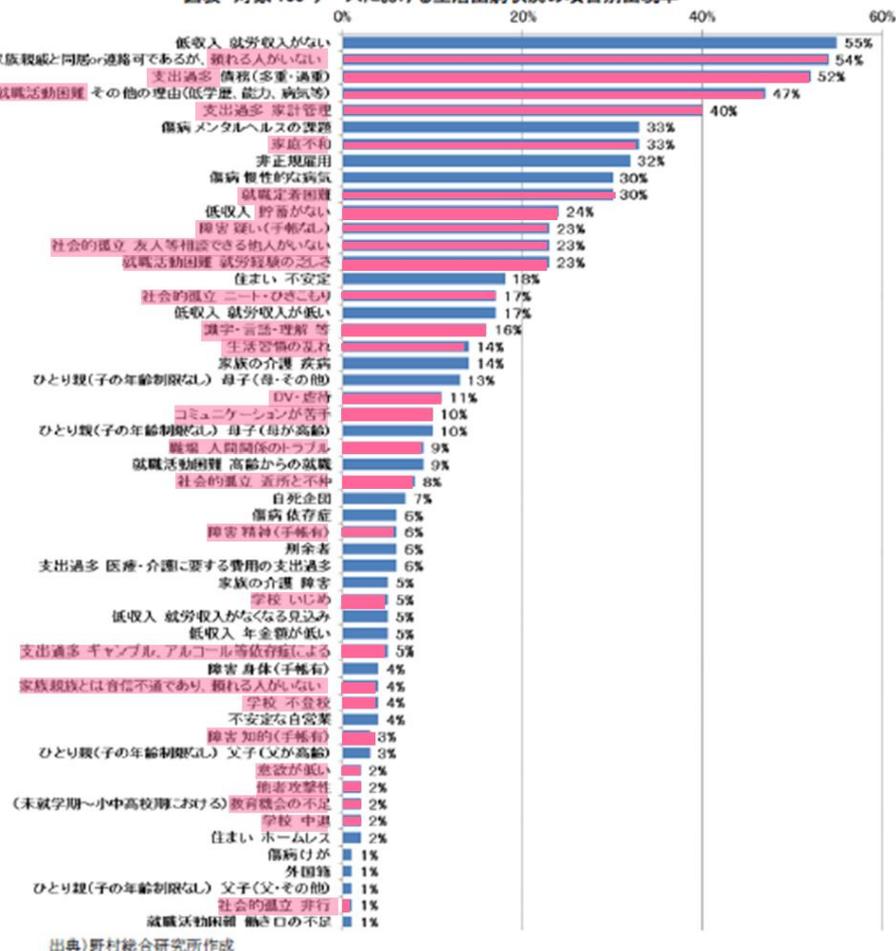
| | | |
|----|--|--|
| 1 | 相手からのメッセージ（言葉、表情、ジェスチャー、視線など）をうまく理解できない | 文字情報、絵、実物など視覚的な情報はとても良く理解できる |
| 2 | 自分の考えや想いをうまく表現できない | 表現がうまくできないだけ |
| 3 | いろいろな感覚的な過敏さや鈍感さ 身体の不器用さ | ユニークな感性 |
| 4 | 転動性・衝動性（注意が次々移っていく、ひとつのことに衝動的に集中など） | いろいろなことに気がつく、気が利く 行動的・活動的 |
| 5 | 時間の流れ、見通しを立てる・見通しをもって行動するなどが苦手 | 見通しがあることはとてもまじめに几帳面にできる人が多い |
| 6 | 空間の認知、場所を段取り良く使うなどが苦手 | いつも同じ場所ではとてもスムーズに活動できる |
| 7 | 変化・変更、新しいことが苦手、怖いなど | とても慎重。納得すればとても素直に、まじめに取り組む |
| 8 | いろいろな場所や、いろいろな人と活動ができない Or ある場所・ある人とやったことは、どこでも誰とでもできる・やっている | 慣れた場所、慣れた人をとても信頼する どこでも、だれとでも同じようにできる |
| 9 | 短期記憶・作動記憶が弱い（忘れっぽい、一度に複数のことをやるのが苦手など） | くよくよ気にしない 気持ちの切り替えが上手 |
| 10 | 長期記憶が良い（記憶力が良い、忘れないなど） | とても良く覚えている 一度覚えたことは忘れない |
| 11 | 人の気持ちを想像するのが苦手 状況判断が苦手 | マイペース。我が道を行く 人に流されない 人を直感的に見分ける |

図表 対象100 ケースにおける生活困窮状況の項目別出現率



出典)野村総合研究所作成

図表 対象100 ケースにおける生活困窮状況の項目別出現率



出典)野村総合研究所作成

平成27年度生活困窮者就労準備支援事業費等補助金「生活困窮者の実態に関する調査研修 報告書」
 H28年3月 (株)野村総合研究所

- 対応・解決が難しい困難ケース
- 生活困窮に陥るメカニズム（要因とプロセス）を明らかにする

図表 選定 30 ケースの属性・表面化している主要な生活困窮状況のまとめ

| 対象属性(カテゴリー) | 表面化している主要な生活困窮状況 | | |
|-----------------------|-----------------------------------|--------------------------|----------------------------------|
| ①若年単身 (N=3) | 低収入(就労収入がない / 低い) (3) | | |
| ②若年その他 (N=7) | 低収入(就労収入がない / 低い) (4) | 就職活動困難 (3) | 債務 / 家計管理 / 家庭不和 / 住まい不安定 (2) |
| ③中高年単身～ 高齢単身 (N=8) | 債務 (7) | 低収入(就労収入がない / 低い) (5) | 就職活動困難(4) 家計管理(3)、住まい不安定(2) |
| ④中高年その他 (N=6) | 就職活動困難 (4) | 家計管理 (3) | ニート・ひきこもり / 家庭不和 / 債務(2) |
| ⑤高齢その他 (N=2) | 過度な援助による家族の自立の妨 げ / 就職活動困難 (2) | | |
| ⑥母子・父子家庭 (N=4) | 家計管理 (4) | 債務 (2) | ネグレクト (2) |

※1:若年は10代～30代、中高年は40～64歳、高齢は65歳以上とした

※2:母子・父子家庭は本人(親)と未成年の子どものいる世帯を指す

※3:世帯の「その他」とは単身以外の世帯を指す

※4:カッコ内の数字は該当するケース数を示す

出典)野村総合研究所作成

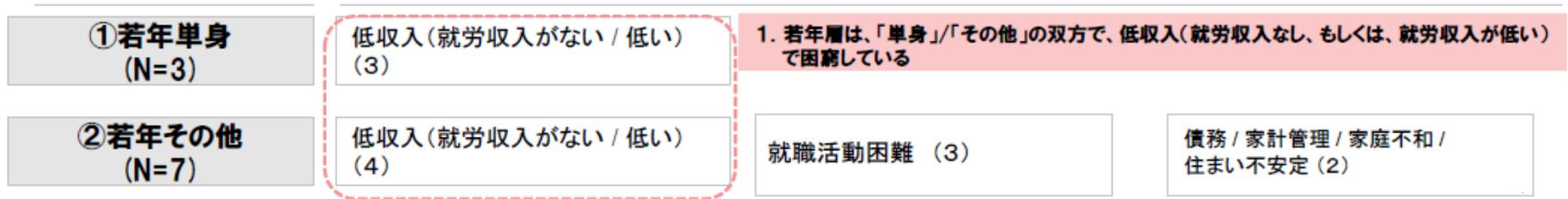
< 典型的なパターン >

1. 若年層で就労収入が低く家族の支援も受けられないパターン
2. 中高年・高齢単身で経済的支柱の喪失と債務が重なるパターン
3. 中高年その他の就職困難による困窮パターン
4. 高齢の親と中高年の子との間の共依存問題パターン
5. 母子（父子）家庭の家計管理による困窮パターン

図表 5つの典型的な生活困窮者像

| 対象属性 | 表面化している主要な生活困窮状況 |
|-----------------|--|
| ①若年単身 (N=3) | 低収入(就労収入がない / 低い) (3) 1. 若年層は、「単身」/「その他」の双方で、低収入(就労収入なし、もしくは、就労収入が低い)で困窮している |
| ②若年その他 (N=7) | 低収入(就労収入がない / 低い) (4) 就職活動困難 (3) 債務 / 家計管理 / 家庭不和 / 住まい不安定 (2) |
| ③中高年～高齢単身 (N=8) | 債務 (7) 2. 単身者は債務による困窮が多い。中高年と高齢の大きな相違点は年金収入の有無 低収入(就労収入がない / 低い) (5) 就職活動困難(4) 家計管理(3)、住まい不安定(2) |
| ④中高年その他 (N=6) | 3. 中高年その他は、就職困難による困窮が多い 就職活動困難 (4) 家計管理 (3) ニート・ひきこもり(2) 家庭不和 / 債務(2) |
| ⑤高齢その他 (N=2) | 過度な援助による家族の自立の妨げ(2) 就職活動困難 (2) 4. 70代親と50代子間の共依存(いわゆる7-5問題)等による困窮 |
| ⑥母子・父子家庭 (N=4) | 5. 母子・父子家庭は家計管理で困窮 家計管理 (4) 債務 (2) ネグレクト (2) |

1. 若年層で就労収入が低く家族の支援も受けられないパターン



<生活困窮に至る要因・ターニングポイント>

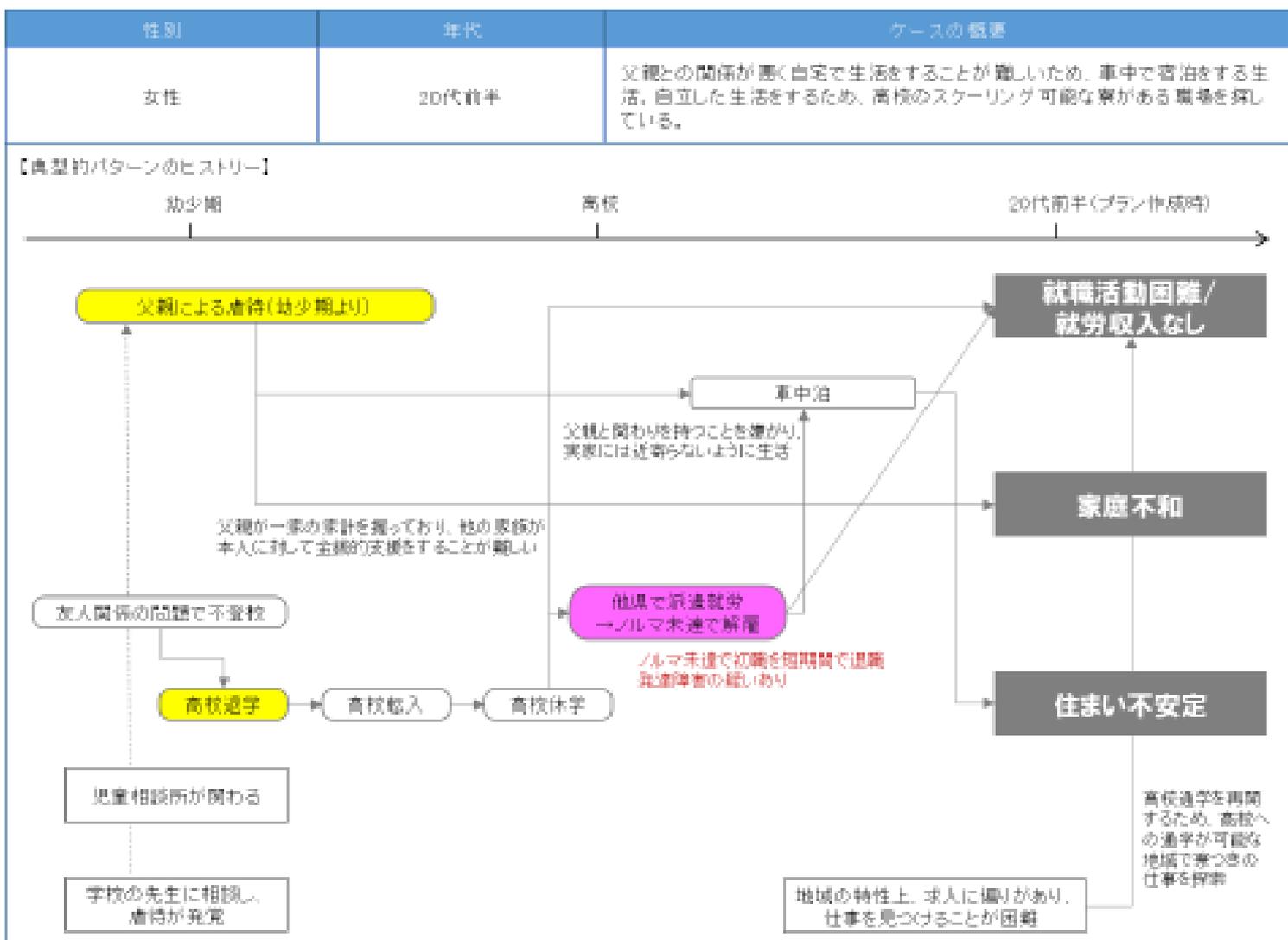
(本人)

- ・ 初職における定着失敗、就職定着困難
- ・ 学校：中退
- ・ ニート、引きこもり
- ・ メンタルヘルスの課題
- ・ 発達障害の疑い / 未対応

(世帯)

- ・ 世帯の経済的支柱の喪失 (世帯の稼ぎ頭の喪失)
- ・ 家庭不和・虐待

図表 若年層で就労収入が低く家族の支援も受けられないパターンにおける代表ケース



※黄色のハッチは生活困難に至る主要な要因、ピンクのハッチはターニングポイントを示す

出典)野村総合研究所作成

2. 中高年・高齢単身で経済的支柱の喪失と債務が重なるパターン

③中高年～高齢単身 (N=8)

債務 (7)

2. 単身者は債務による困窮が多い。中高年と高齢の大きな相違点は年金収入の有無

低収入(就労収入がない/低い)
(5)

就職活動困難(4)
家計管理(3)、住まい不安定(2)

<生活困窮に至る要因・ターニングポイント>

(本人)

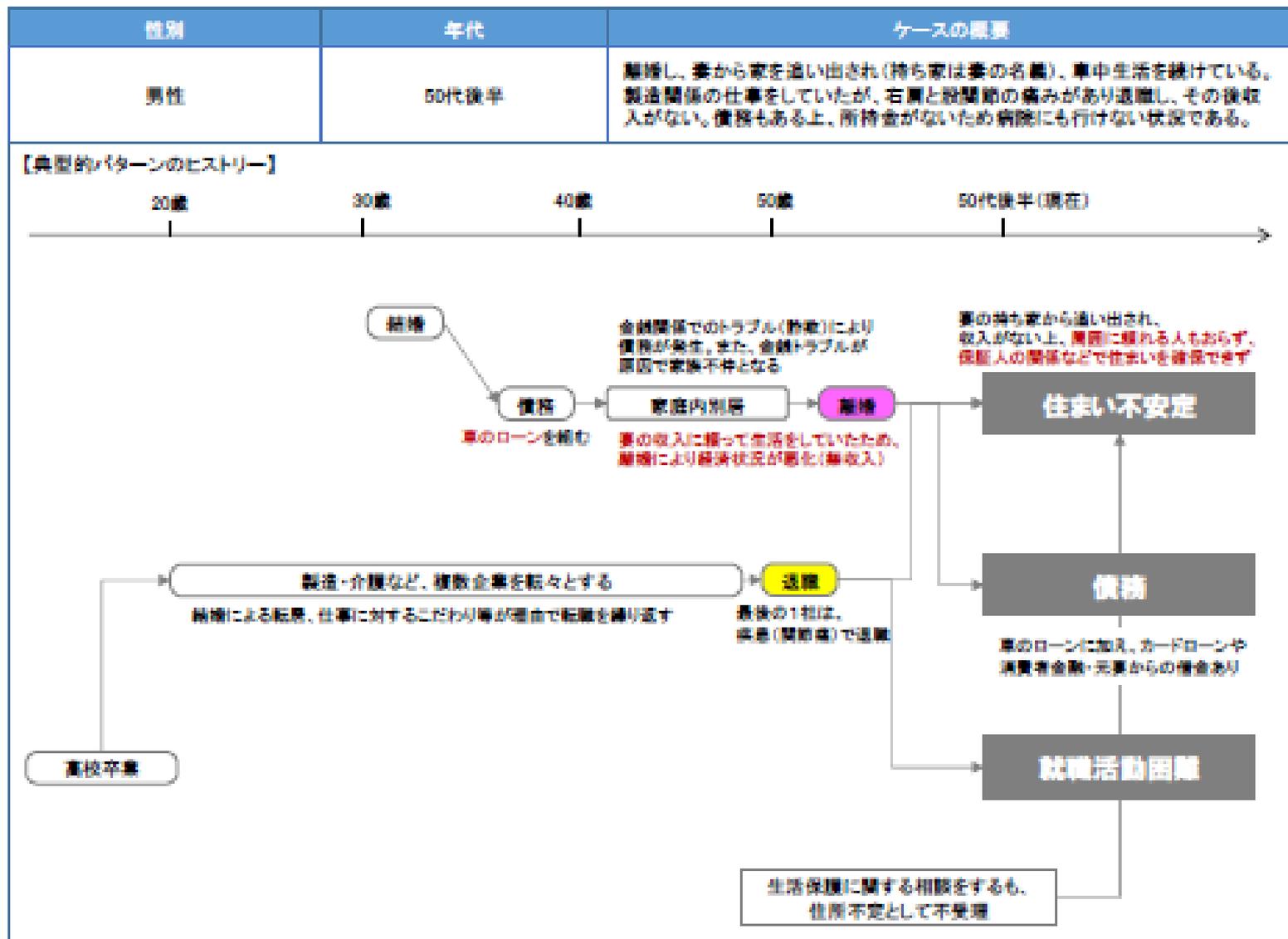
- ・ 就職定着困難
- ・ 疾病による退職
- ・ ニート、引きこもり
- ・ 依存症による支出過多
- ・ 発達障害の疑い／未対応

(世帯)

- ・ 離婚や死別による40代、50代での世帯の経済的支柱
(稼ぎ頭)の喪失
- ・ 住まい不安定

* 周囲からの孤立 (関係性の困窮)

図表 中高年・高齢単身で経済的支柱の喪失と債務が重なるパターンにおける代表ケース



※黄色のハッチは生活困窮に至る主要な要因、ピンクのハッチはターニングポイントを示す

出典)野村総合研究所作成

3. 中高年その他の就職困難による困窮パターン

④中高年その他
(N=6)

就職活動困難 (4)

3. 中高年その他は、就職困難による困窮が多い

家計管理 (3)

<生活困窮に至る要因・ターニングポイント>

(本人)

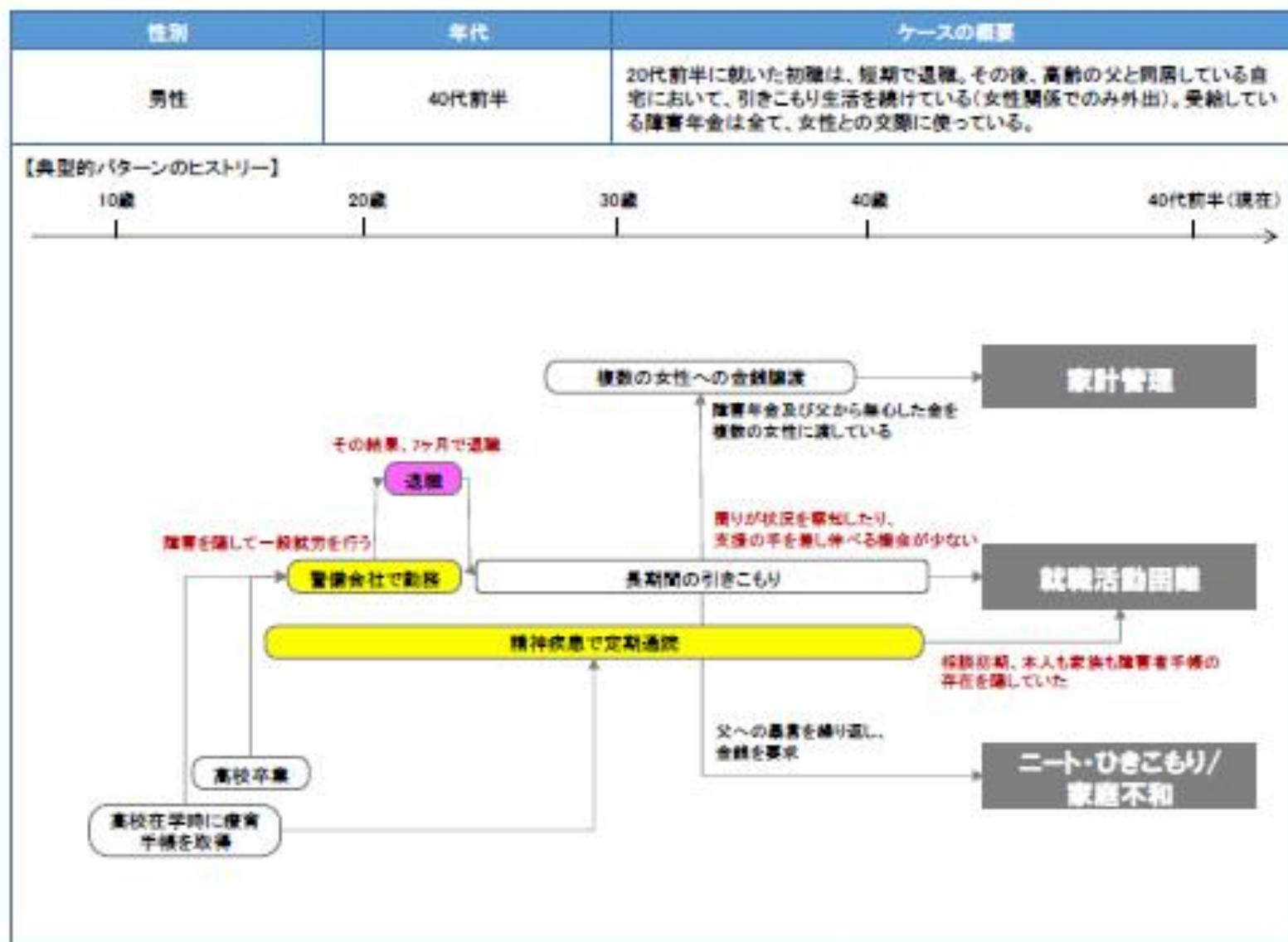
- ・初職における定着失敗
- ・障害を隠しての一般就労への申し込みや
実際の就労による不具合
- ・ニート、引きこもり
- ・依存症による支出過多

(世帯)

障害を隠しての一般就労を家族が強いる

- * 中高年という年齢層は、民生委員の見守りの対象となりづらく、周困から孤立していても周りが状況を把握しづらい

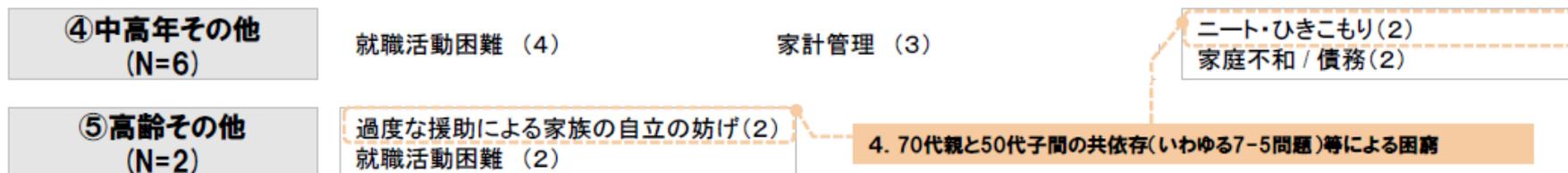
図表 中高年その他の就職困難による困窮パターンにおける代表ケース



※黄色のハッチは生活困窮に至る主要な要因、ピンクのハッチはターニングポイントを示す

出典)野村総合研究所作成

4. 高齢の親と中高年の子との間の共依存問題パターン



<生活困窮に至る要因・ターニングポイント>

(本人)

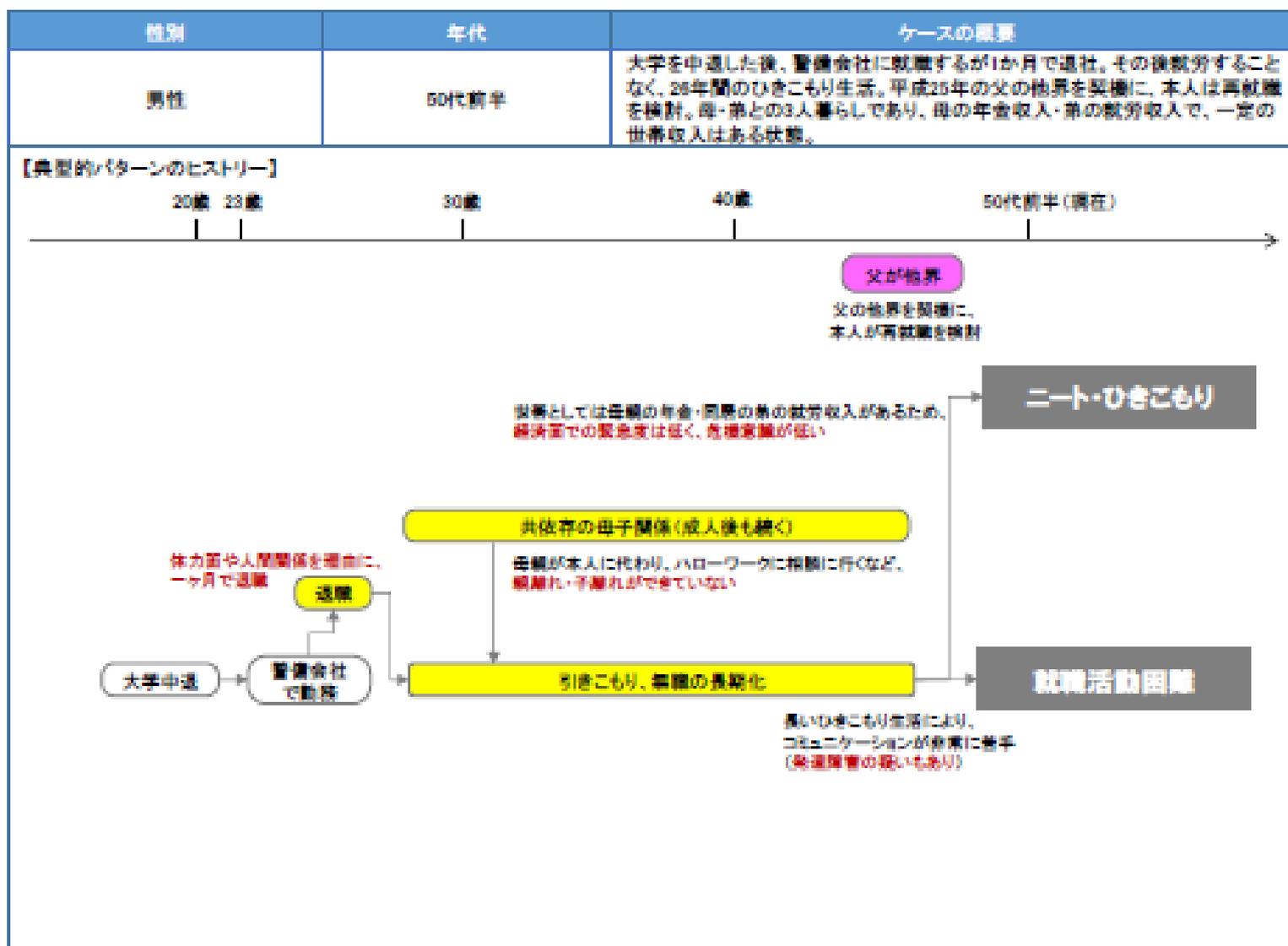
- ・ 成人後も続く、親子間（息子⇔母親間など）の共依存
- ・ 初職における定着失敗
- ・ 発達障害の疑い／未対応

(世帯・親)

- ・ 成人後も続く、親子間（息子⇔母親間など）の共依存
- ・ 世帯の経済的支柱の喪失（世帯の稼ぎ頭の喪失）

* 80-50問題

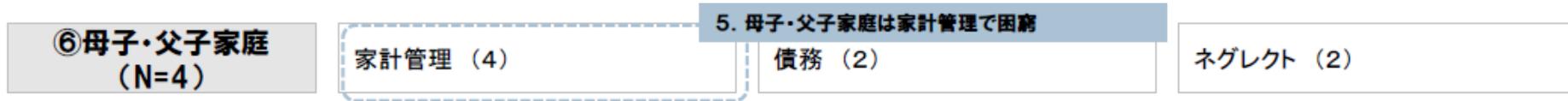
図表 高齢の親と中高年の子との間の共依存問題パターンにおける代表ケース



※黄色のハッチは生活困窮に至る主要な要因、ピンクのハッチはターニングポイントを示す

出典)野村総合研究所作成

5. 母子（父子）家庭の家計管理による困窮パターン



<生活困窮に至る要因・ターニングポイント>

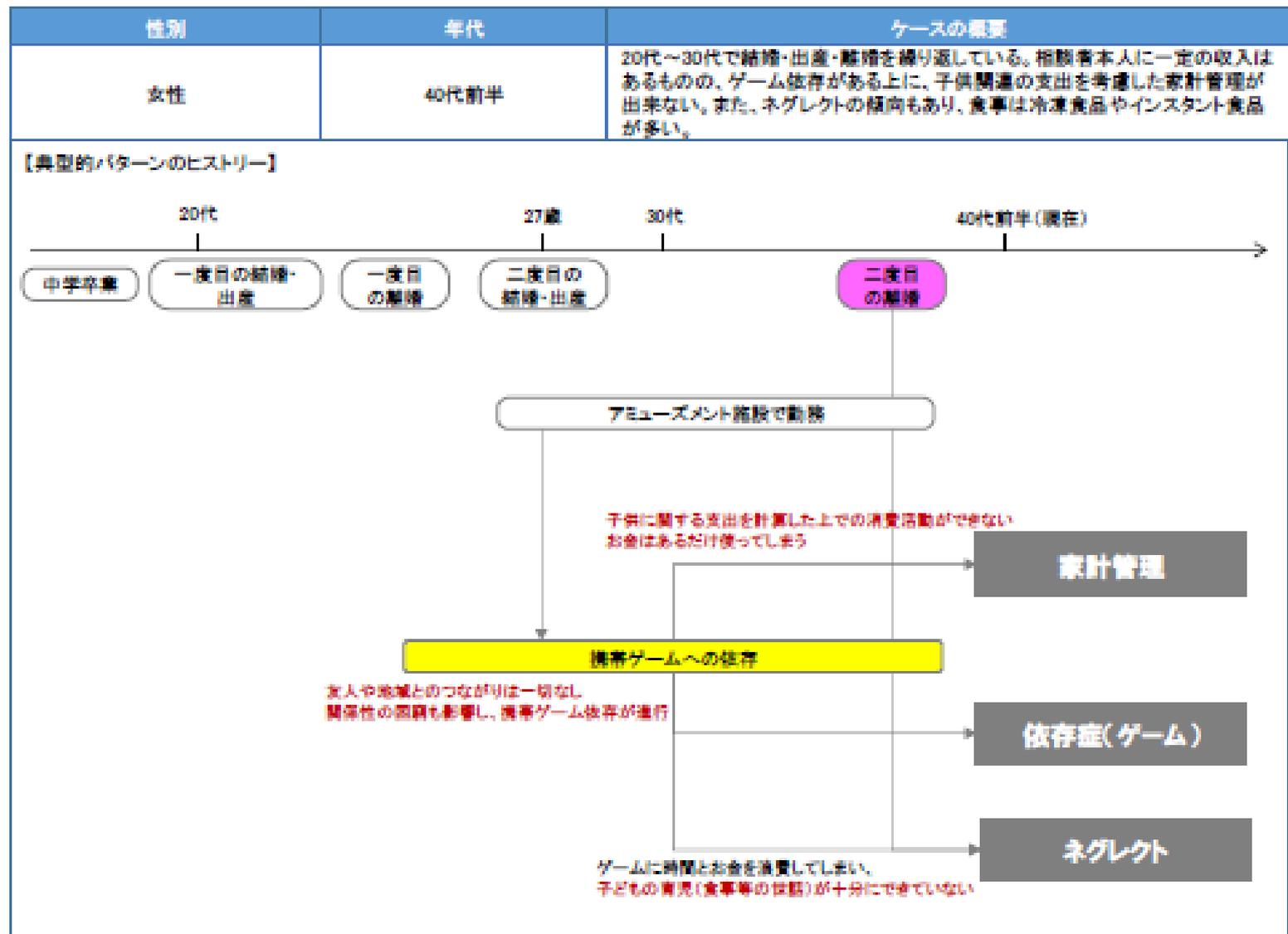
(本人)

- ・ 依存症による支出過多（子以外に時間とお金を使ってしまうゲームや飲酒への依存）
* 虐待（ネグレクト、育児放棄）につながることも

(世帯)

- ・ 世帯の経済的支柱の喪失、生活面や精神面で頼れる存在の喪失
* 子どもに生じた問題から学校でリスク世帯として発見することが可能

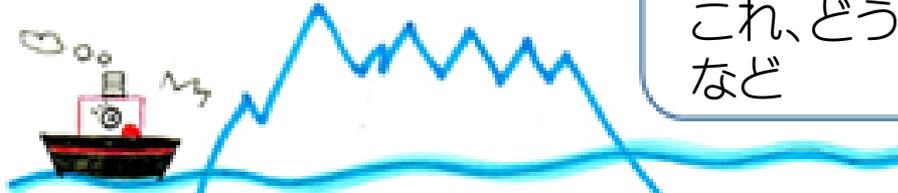
図表 母子(父子)家庭の家計管理による困窮パターンにおける代表ケース



※黄色のハッチは生活困窮に至る主要な要因、ピンクのハッチはターニングポイントを示す

出典) 野村総合研究所作成

困っている行動
なんでこんなことするの？
これ、どうすればいいの？
など



特性

どの特性が関わっているかな？
*ひとつだけとは限りません

環境

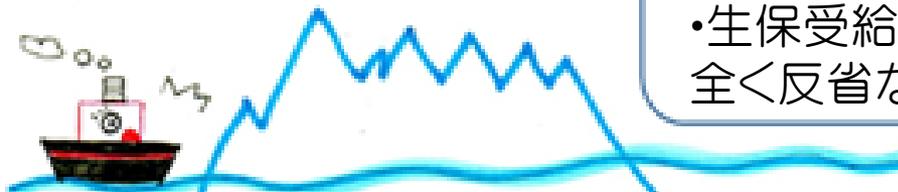
周囲の状況は？
どんな関わり方をしている？
どんな工夫を試してみた？
など



<対応案>
どうすればいい？
こうしてみたらどうだろう？
今までの関わり方のここを変えてみよう。
などなど

<例題>

就労支援をして一度は就職
しても、長続きせず、また相談
・生保受給…の繰り返し
全く反省なし



特性

環境



<たとえば①>

就労支援をして一度は就職しても、長続きせず、また相談
・生保受給…の繰り返し
全く反省なし

特性

- 3. 感覚の特異性(不器用)
- 1. コミュニケーションの理解(ことばの理解が苦手)
- 11. 人の気持ちを理解する・状況判断が苦手

環境

- ・障害への理解がなく、ことばだけの関わり
 - ・同僚が、作業スピードの遅さを繰り返し指摘
 - ・上司からも、注意を受ける
- ↓
- 自分は一生懸命やっているのにいつも自分だけが注意される。
ある日上司からの注意にキレて暴言・暴力それきり出社しない。

<対応事例>

- ・周囲の人が特性に気づく。障害特性・会社の文化など、本人に合った職種・作業を探す(ゆっくり丁寧でいい)
- ・指示をわかりやすく(短いことば、視覚情報を使った指示書やマニュアル。)
- ・指導者・指示する人を決める など

<たとえば②>

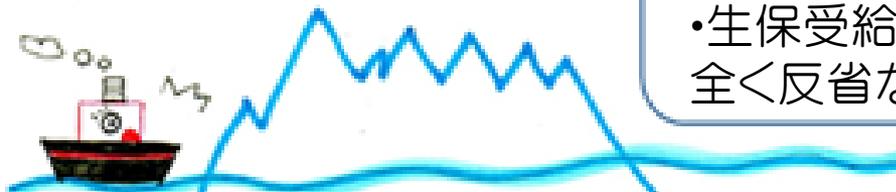
就労支援をして一度は就職しても、長続きせず、また相談
・生保受給…の繰り返し
全く反省なし

特性

1. コミュニケーションの理解
(ことばの理解が苦手)
9. 記憶の維持
2. 自分の気持ちを表現するのが
苦手
11. 人の気持ち・状況判断が苦手

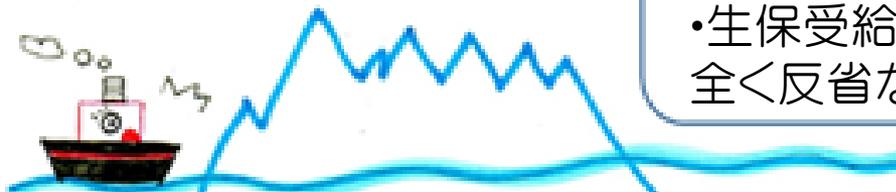
環境

- ・ことばだけの指示や会話
 - ・分業
 - ・コミュニケーションより効率重視
 - ・マニュアルや指示書がない
- ↓
- 一度では仕事が覚えられず困っているが、聞けない。みんなが自分を無視していると誤解し、精神的に落ちこみ鬱状態で退職。



<たとえば③>

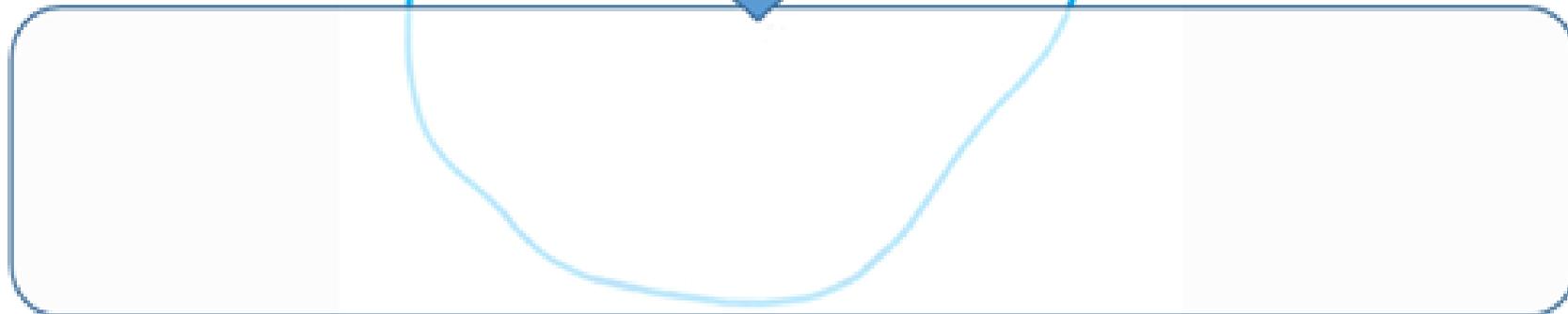
就労支援をして一度は就職しても、長続きせず、また相談
・生保受給…の繰り返し
全く反省なし



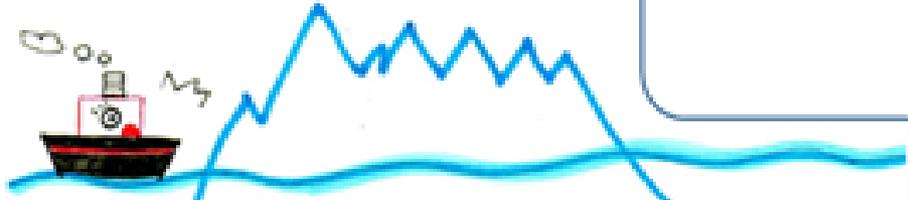
特性

環境

- 他の人の動きや会話が気になって仕事に集中できない
- 変更や人との調整ができず、自分勝手
- やっていたこと、やるべきことをすぐに忘れてしまうので、いつも仕事が完結しない
- 他の人が自分をどうみているか、全く気にしていないマイペース。



<たとえば：（ ）さんの場合>



Empty rounded rectangular box for notes or additional information.

特性

Large empty rounded rectangular box for notes related to '特性' (Characteristics).

環境

Large empty rounded rectangular box for notes related to '環境' (Environment).



Large empty rounded rectangular box at the bottom of the diagram, likely for a conclusion or synthesis of the information above.

生活困窮者支援に 必要と考えられる視点

～発達障害者への支援のあり方～

平成28年度自立相談支援事業従事者養成研修（前期）

NPO法人ふわり

(有)SNOW DREAM

山口久美

1. 若年層で就労収入が低く家族の支援も受けられないパターン

| | | | |
|-----------------|--------------------------|--|-------------------------------|
| ①若年単身 (N=3) | 低収入(就労収入がない / 低い) (3) | 1. 若年層は、「単身」/「その他」の双方で、低収入(就労収入なし、もしくは、就労収入が低い)で困窮している | |
| ②若年その他 (N=7) | 低収入(就労収入がない / 低い) (4) | 就職活動困難 (3) | 債務 / 家計管理 / 家庭不和 / 住まい不安定 (2) |

<生活困窮に至る要因・ターニングポイント>

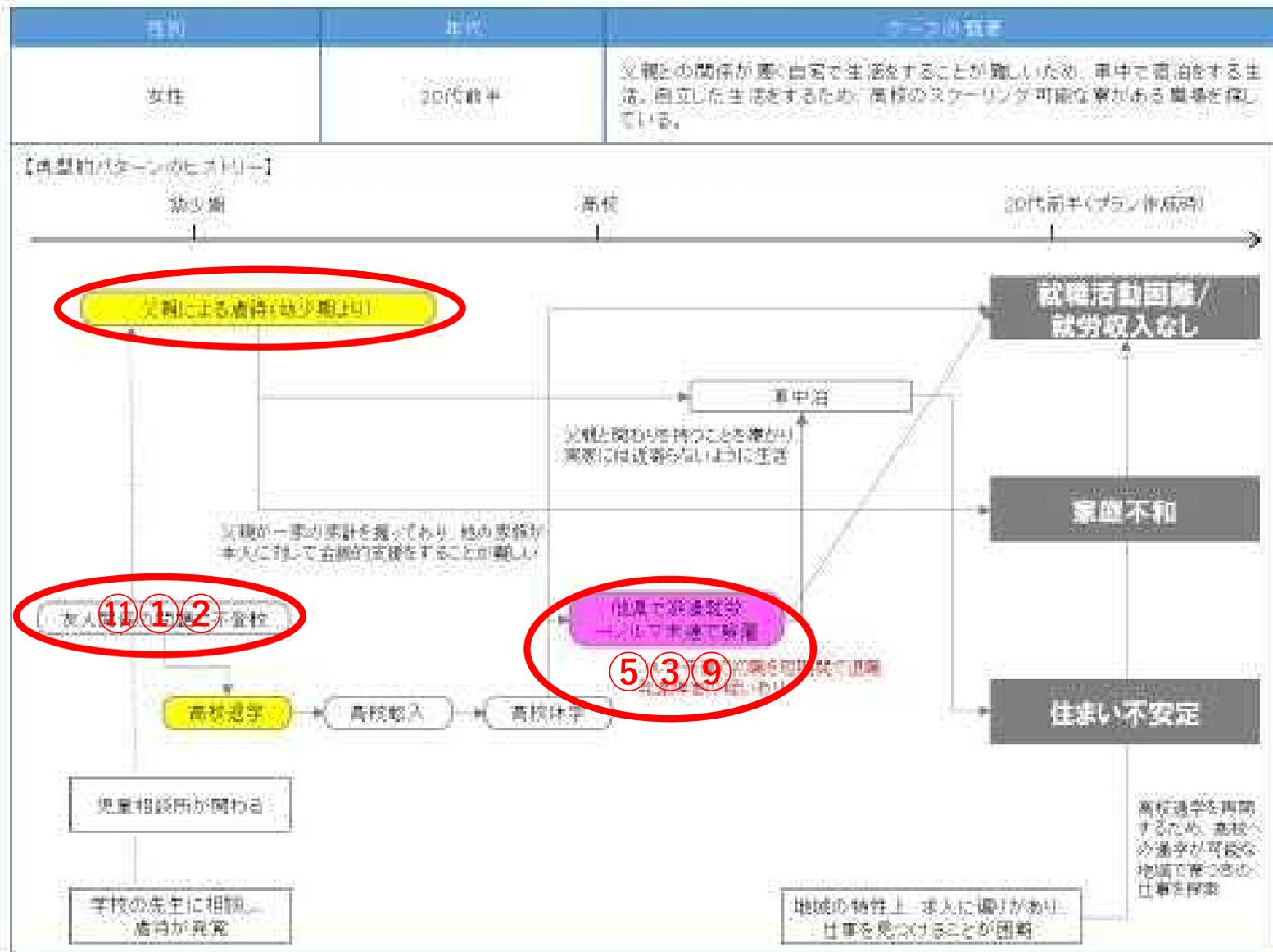
(本人)

- ・ **初職**における **定着失敗、就職定着困難**
- ・ **学校：中退**
- ・ **ニート、引きこもり**
- ・ メンタルヘルスの課題
- ・ **発達障害の疑い / 未対応**

(世帯)

- ・ 世帯の経済的支柱の喪失 (世帯の稼ぎ頭の喪失)
- ・ **家庭不和・虐待**

図表 若年層で就労収入が低く家族の支援も受けられないパターンにおける代表ケース



※黄色のハッチは生活困難に至る主要な要因、ピンクのハッチはターニングポイントを示す

(出典)野村総合研究所作成

2. 中高年・高齢単身で経済的支柱の喪失と債務が重なるパターン

| | | |
|--------------------|---|---|
| ③中高年～高齢単身 (N=8) | 2. 単身者は債務による困窮が多い。中高年と高齢の大きな相違点は年金収入の有無 | |
| | 債務 (7) | 低収入(就労収入がない / 低い) (5) 就職活動困難(4) 家計管理(3)、住まい不安定(2) |

<生活困窮に至る要因・ターニングポイント>

(本人)

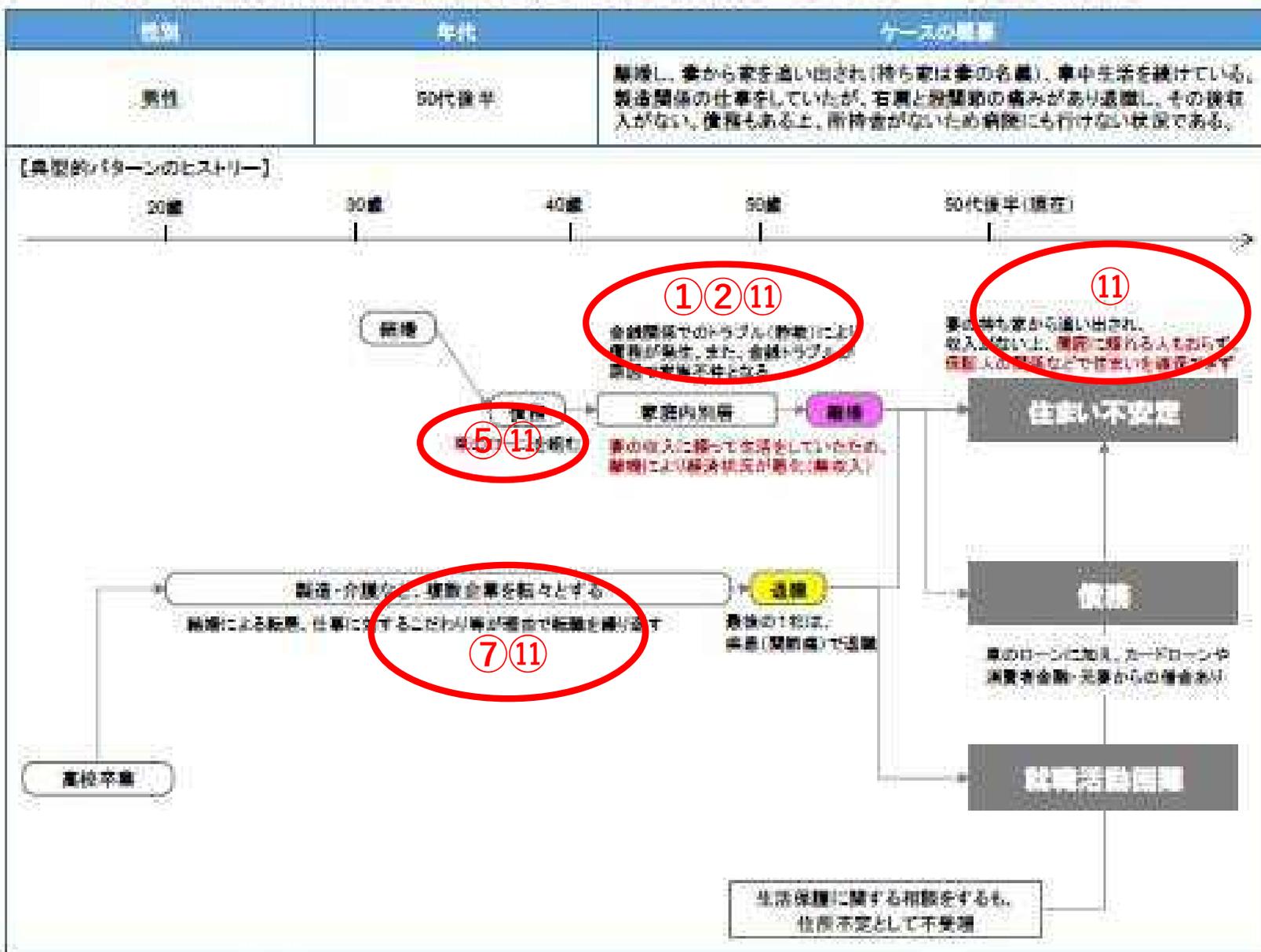
- ・ **就職定着困難**
- ・ 疾病による退職
- ・ **ニート、引きこもり**
- ・ 依存症による**支出過多**
- ・ **発達障害の疑い／未対応**

(世帯)

- ・ 離婚や死別による40代、50代での世帯の経済的支柱
(稼ぎ頭)の喪失
- ・ 住まい不安定

* **周囲からの孤立** (関係性の困窮)

図表 中高年・高齢単身で経済的支柱の喪失と債務が重なるパターンにおける代表ケース



※黄色のハッチは生活困難に至る主要な要因、ピンクのハッチはターニングポイントを示す

出典)野村総合研究所作成

3. 中高年その他の就職困難による困窮パターン

④中高年その他
(N=6)

就職活動困難 (4)

3. 中高年その他は、就職困難による困窮が多い

家計管理 (3)

<生活困窮に至る要因・ターニングポイント>

(本人)

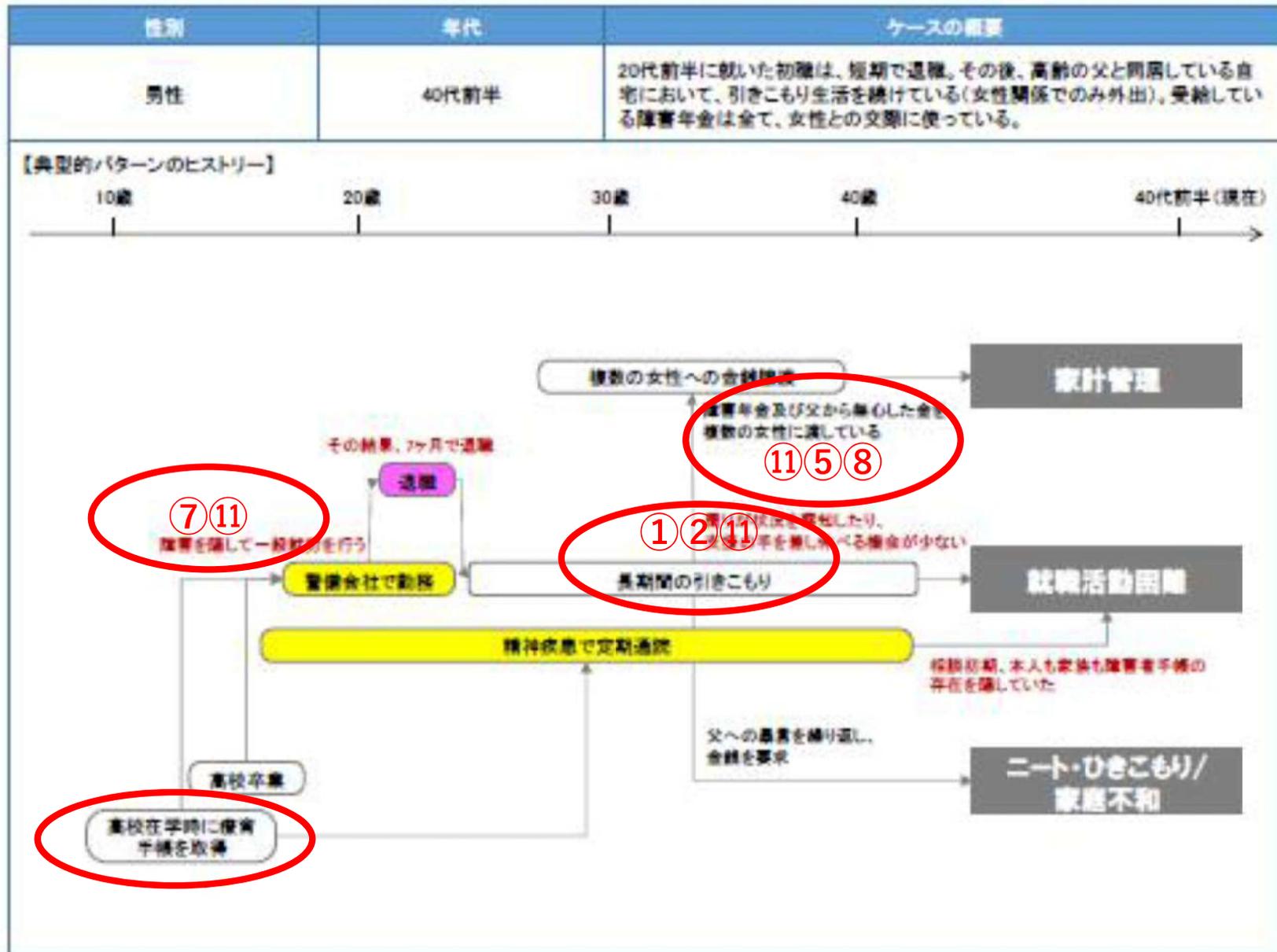
- ・ **初職における定着失敗**
- ・ **障害を隠して**の一般就労への申し込みや
実際の**就労による不具合**
- ・ **ニート、引きこもり**
- ・ 依存症による**支出過多**

(世帯)

障害を隠しての一般就労を家族が強いる

* 中高年という年齢層は、民生委員の見守りの対象となりづらく、**周囲から孤立**していても周りが状況を把握しづらい

図表 中高年その他の就職困難による困窮パターンにおける代表ケース



※黄色のハッチは生活困窮に至る主要な要因、ピンクのハッチはターニングポイントを示す

出典)野村総合研究所作成

4. 高齢の親と中高年の子の間の共依存問題パターン



< 生活困窮に至る要因・ターニングポイント >

(本人)

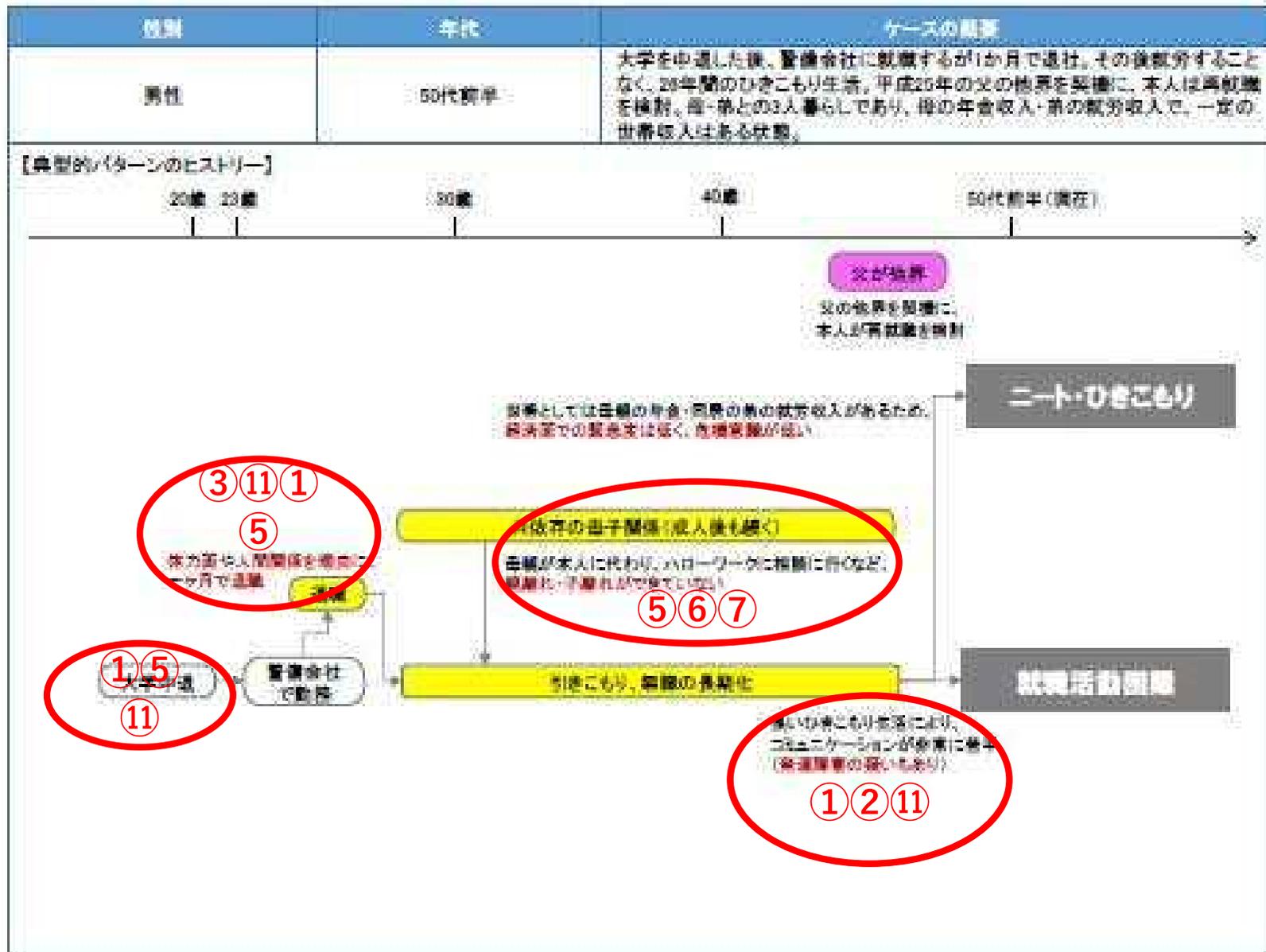
- ・ 成人後も続く、**親子間 (息子⇔母親間など) の共依存**
- ・ **初職における定着失敗**
- ・ **発達障害の疑い / 未対応**

(世帯・親)

- ・ 成人後も続く、**親子間 (息子⇔母親間など) の共依存**
- ・ 世帯の経済的支柱の喪失 (世帯の稼ぎ頭の喪失)

* 80-50問題

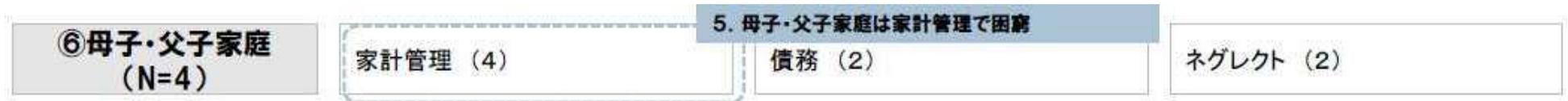
図表 高齢の親と中高年の子との間の共依存問題パターンにおける代表ケース



※黄色のハッチは生活困難に至る主要な要因、ピンクのハッチはターニングポイントを示す

出典)野村総合研究所作成

5. 母子（父子）家庭の家計管理による困窮パターン



<生活困窮に至る要因・ターニングポイント>

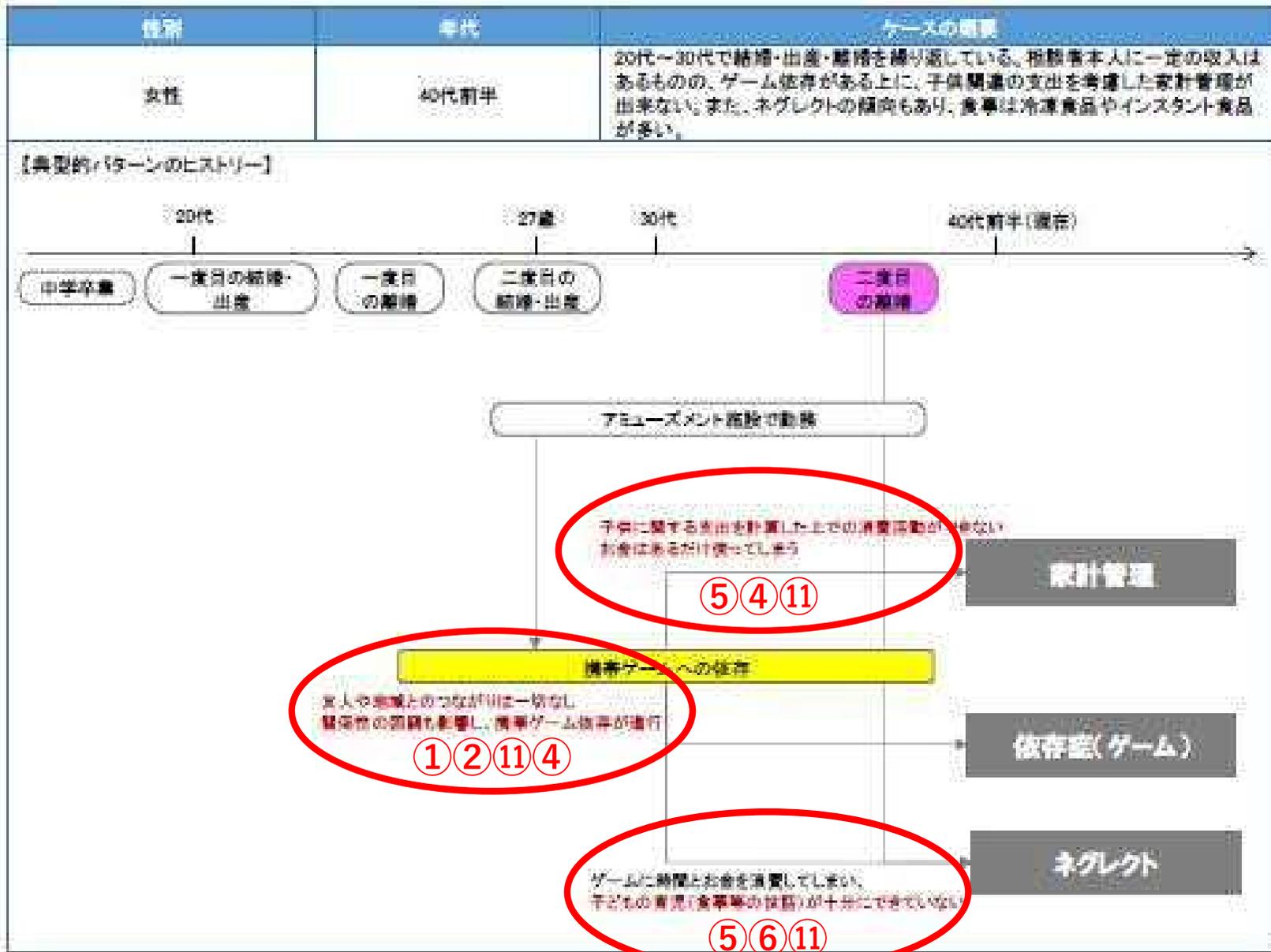
(本人)

- ・ **依存症による支出過多**（子以外に時間とお金を使ってしまうゲームや飲酒への依存）
 - * **虐待（ネグレクト、育児放棄）** につながることも

(世帯)

- ・ 世帯の経済的支柱の喪失、生活面や精神面で頼れる存在の喪失
 - * 子どもに生じた問題から学校でリスク世帯として発見することが可能

図表 母子(父子)家庭の家計管理による困窮パターンにおける代表ケース

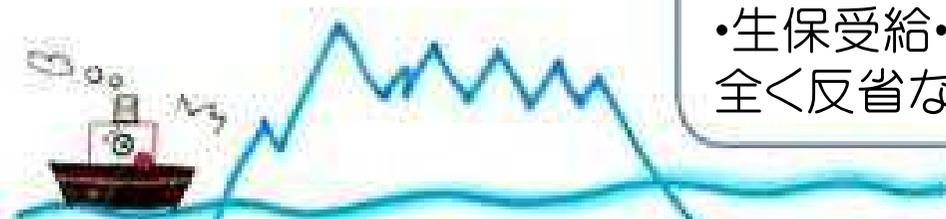


※黄色のハッチは生活困窮に至る主要な要因、ピンクのハッチはターニングポイントを示す

出典)野村総合研究所作成

<たとえば①>

就労支援をして一度は就職しても、長続きせず、また相談・生保受給…の繰り返し
全く反省なし



特性

- 3. 感覚の特異性(不器用)
- 1. コミュニケーションの理解(ことばの理解が苦手)
- 11. 人の気持ちを理解する・状況判断が苦手

環境

- ・障害への理解がなく、ことばだけの関わり
 - ・同僚が、作業スピードの遅さを繰り返し指摘
 - ・上司からも、注意を受ける
- ↓
- 自分は一生懸命やっているのにいつも自分だけが注意される。
ある日上司からの注意にキレて暴言・暴力それきり出社しない。



<対応事例>

- ・周囲の人が特性に気づく。障害特性・会社の文化など、本人に合った職種・作業を探す(ゆっくり丁寧でいい)
- ・指示をわかりやすく(短いことば、視覚情報を使った指示書やマニュアル。)
- ・指導者・指示する人を決める など

<たとえば②>

就労支援をして一度は就職しても、長続きせず、また相談
・生保受給…の繰り返し
全く反省なし

特性

- 1. コミュニケーションの理解 (ことばの理解が苦手)
- 9. 記憶の維持
- 2. 自分の気持ちを表現するのが苦手
- 11. 人の気持ち・状況判断が苦手

環境

- ・ことばだけの指示や会話
 - ・分業
 - ・コミュニケーションより効率重視
 - ・マニュアルや指示書がない
- ↓
- 一度では仕事が覚えられず困っているが、聞けない。みんなが自分を無視していると誤解し、精神的に落ちこみ鬱状態で退職。

<対応事例>

- ・作業マニュアルや指示書、リマインダーを活用し、見れば思い出せる工夫をする
- ・困った時、わからない時に聞く人を決めておく(相談者や直属・直近の上司など)
- ・コミュニケーション重視の職場をマッチング
- ・第三者の相談者をつくり、定期的に面談 など

<たとえば③>

就労支援をして一度は就職しても、長続きせず、また相談・生保受給…の繰り返し
全く反省なし

特性

- 4. 転動性・衝動性
- 5. 時間の整理統合が苦手
- 6. 空間の整理統合が苦手
- 9. 短期記憶が弱い
- 11. 人の気持ち・状況判断が苦手

環境

- 他の人の動きや会話が気になって仕事に集中できない
- 変更や人との調整ができず、自分勝手
- やっていたこと、やるべきことをすぐに忘れてしまうので、いつも仕事が完結しない
- 他の人が自分をどうみているか、全く気にしていないマイペース。

<対応事例>

- 仕事の場所を工夫(他の人に背を向ける配置、仕切りを活用など)
- 変更や調整は、表や図などを使って説明、できれば、理由も記入
- メモ、リマインダー、アラーム、声かけなどで、忘れないようにする工夫
- 感謝、ねぎらい、注意、アドバイスなどを伝えるときに、なぜそう思ったか、これを言うのかの理由を添える(できるだけ、書く) など

平成 27 年度生活困窮者就労準備支援事業費等補助金(社会福祉推進事業分)

生活困窮者の実態に関する調査研究

報告書

平成 28 年 3 月

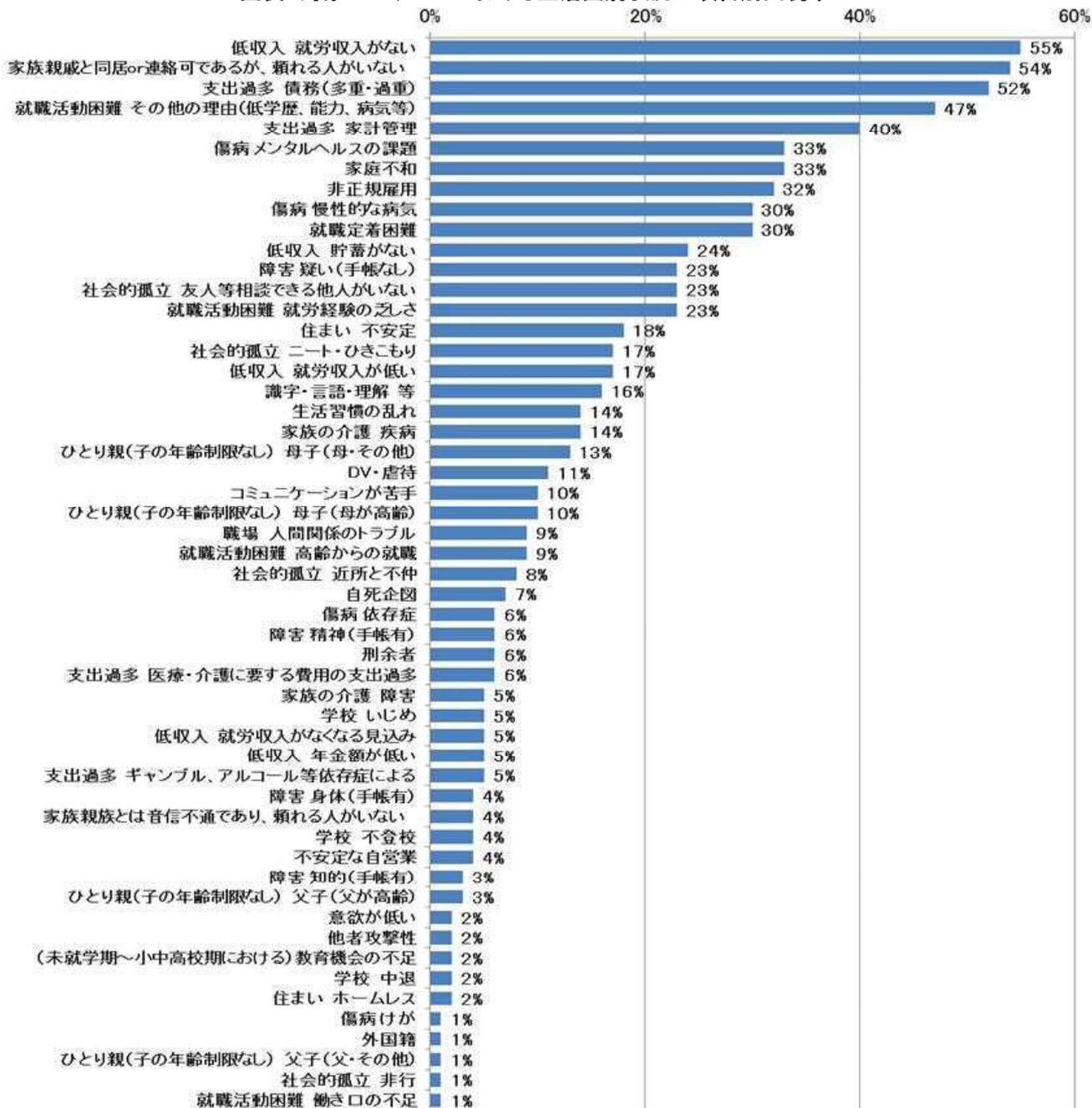
株式会社 野村総合研究所

現率、「家庭不和」が33%の出現率となっており、同様に出現率の高い項目となっている。

本調査における対象ケースでは、「債務(多重・過重)」「家計管理」といった経済的困窮に関連する項目だけでなく、「家族親戚と同居 or 連絡可であるが、頼れる人がいない」「家庭不和」といった、人間関係に関連する項目の出現率が高くなった。このことから、困難ケースにおいては、経済的困窮だけでなく「関係性」の困窮に関わる問題も抱えているケースが多い傾向にあるといえる。

本調査研究における生活困窮状況各項目の集計結果(各項目の出現率)は以下のグラフを参照。

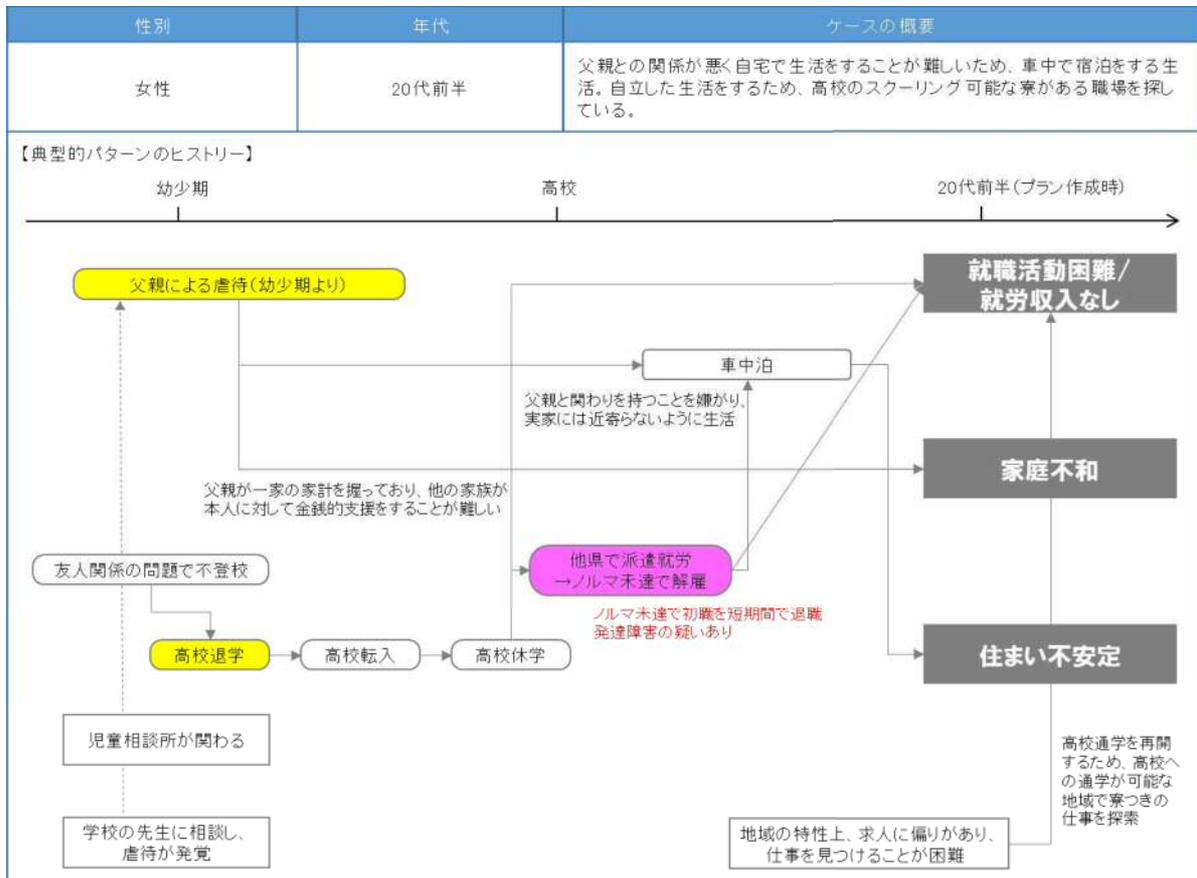
図表 対象 100 ケースにおける生活困窮状況の項目別出現率



出典)野村総合研究所作成

(4) 代表ケース

図表 若年層で就労収入が低く家族の支援も受けられないパターンにおける代表ケース



※黄色のハッチは生活困窮に至る主要な要因、ピンクのハッチはターニングポイントを示す

出典)野村総合研究所作成

当該ケースでは、初職先でのトラブルが生活困窮に至る主要因・ターニングポイントとなった。初職先でのトラブル(ノルマ未達成)の背景には、業務中に注意が散漫になる・職場の人間とのコミュニケーションを取るのが難しい等、本人の発達障害(疑い)と関連する事項があったとみられる。また、父親以外の家族に過度に頼る傾向があり、本人の自立を妨げている側面も見られた。

さらに当代表ケースでは、困窮状況として住まい不安定も確認されているが、住まいが確保できなくなったというハード面ではなく、関係性の困窮や家庭不和が対象者の住まい不安定につながっているというパターンであった。

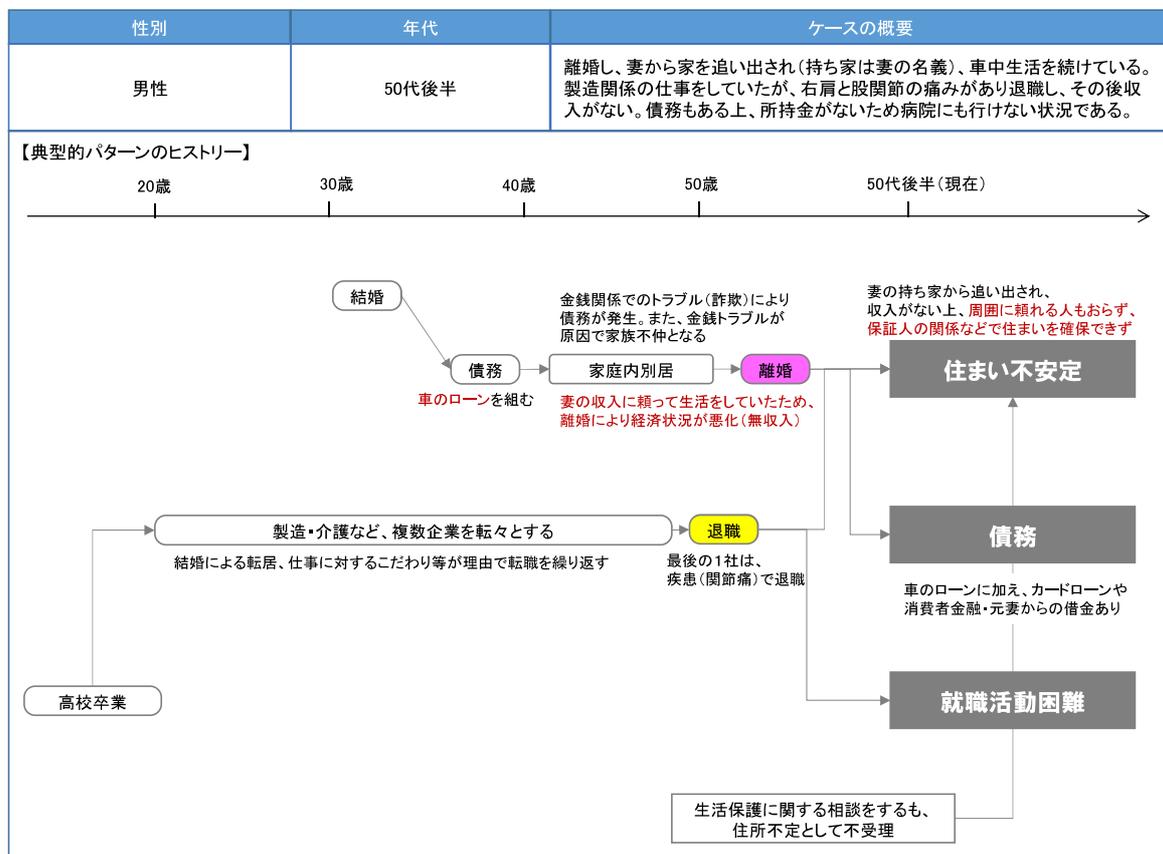
(3) 生活困窮に至る考察

当類型においては、収入のある配偶者に経済面で頼りきりとなっているために、単身となった際、生活が立ち行かなくなるケースが見られた。特に40代・50代では就職活動が困難であり、一度、退職してしまう、あるいは収入が途絶えてしまった場合に、債務問題に直結しやすい傾向にある。既婚時に安易にローン(住宅ローンなど)を組んでしまうことにより、単身となった後も債務の問題が付きまとうケースも見られた。

また、家族・親戚・近隣住民等の周囲からの孤立(関係性の困窮)が引き起こす問題も見られた。具体的には、住まい不安定(住まい確保が困難)/アルコール・ギャンブル依存や宗教での浪費/困窮状態に陥っても相談窓口が把握できない、等の問題につながっていた。

(4) 代表ケース

図表 中高年・高齢単身で経済的支柱の喪失と債務が重なるパターンにおける代表ケース



※黄色のハッチは生活困窮に至る主要な要因、ピンクのハッチはターニングポイントを示す

出典)野村総合研究所作成

当代表ケースでは、妻との離婚が生活困窮に至る主要因・ターニングポイントとなった。妻の収入に頼った生活を行っていたため、離婚後は生活が立ち行かなくなり、生活困窮状態に陥った。相談者本人は働くことを希望するが、体調が悪く、働けるような状態には無かった。

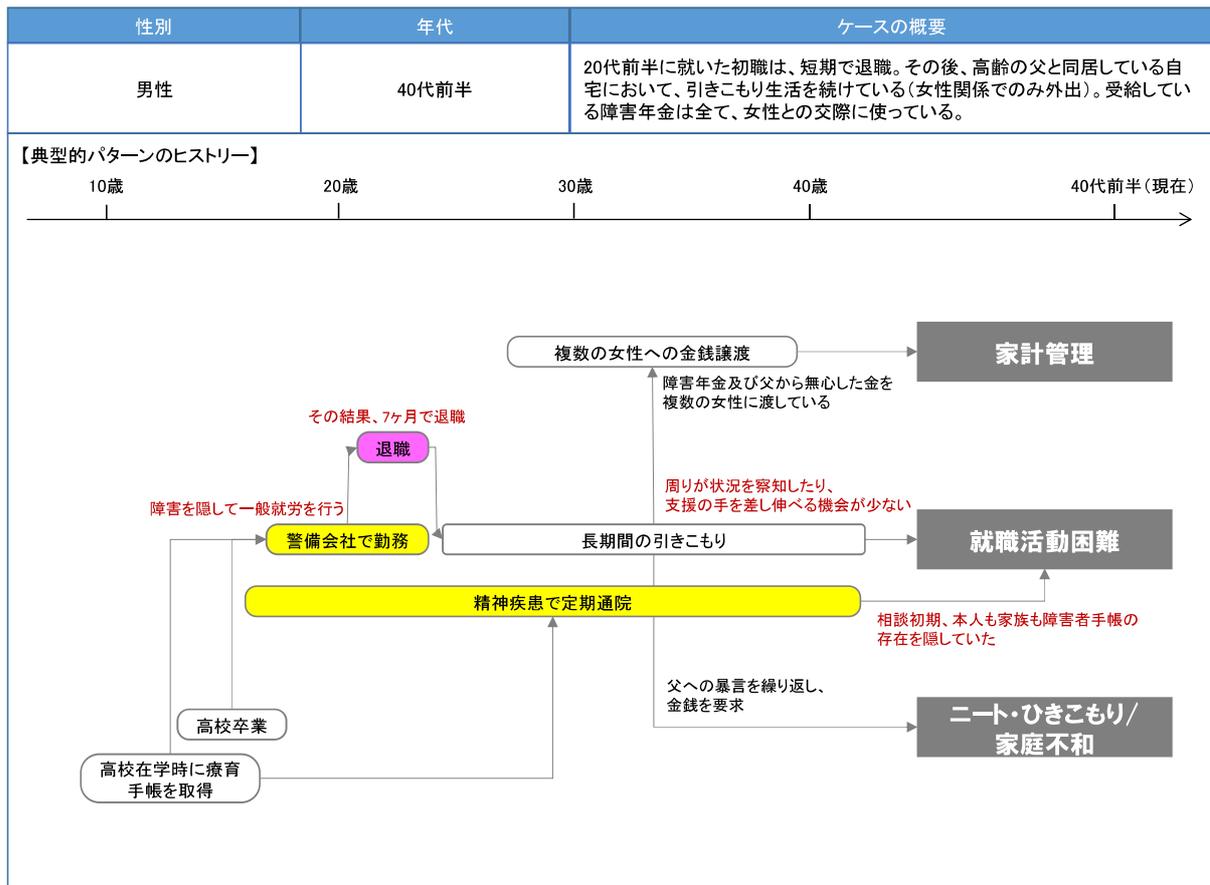
また当代表ケースでは、住んでいた家が妻名義の家だったため、離婚を契機に住まい不安定という困窮状況にも陥っている。両親が他界しており親戚との関係が悪かったため、賃貸物件を借りる際の保

がってしまう。

近年、先進的な自治体は、ニート・ひきこもり対策に注力してきているものの、中高年という年齢層は、民生委員による見守りの対象となりづらい等、周囲から孤立していても周りが状況を察しづらい層である。

(4) 代表ケース

図表 中高年その他の就職困難による困窮パターンにおける代表ケース



※黄色のハッチは生活困窮に至る主要な要因、ピンクのハッチはターニングポイントを示す

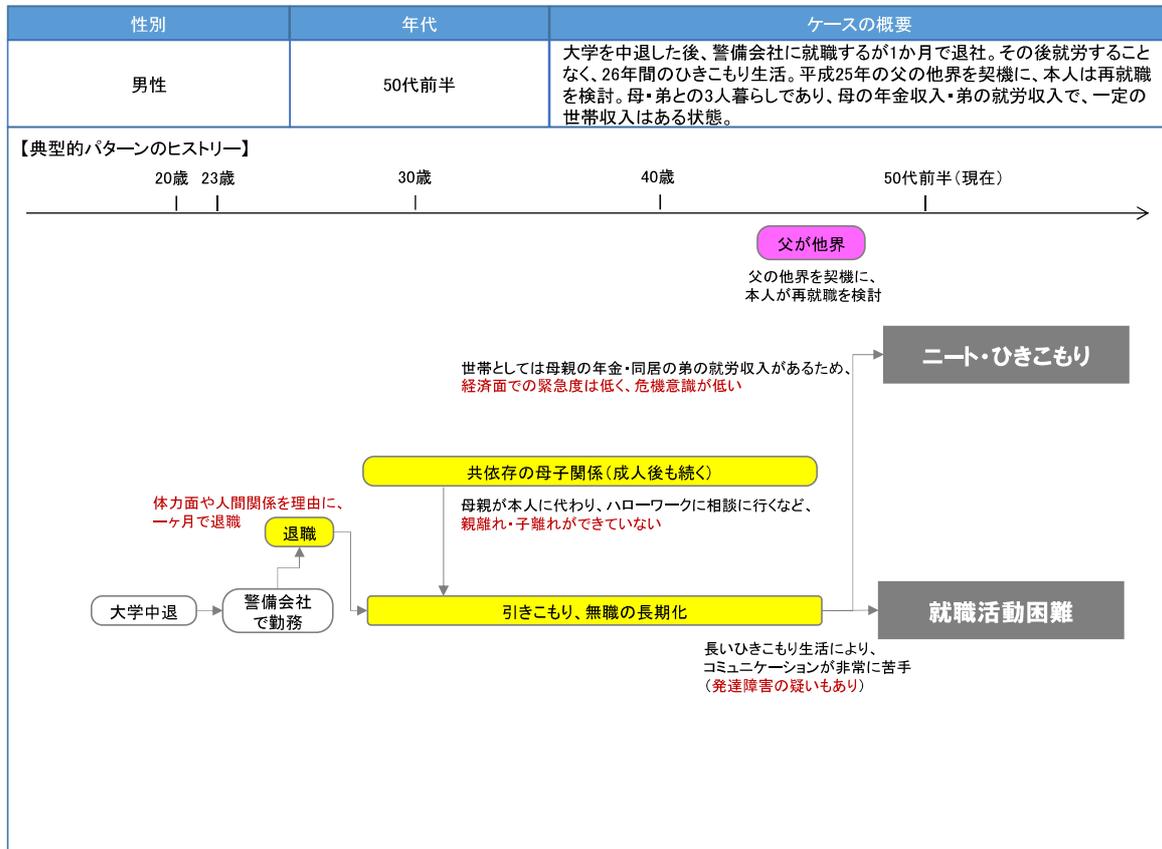
出典) 野村総合研究所作成

当該ケースでは、初職におけるトラブルがターニングポイントとなった。具体的には、障害を隠して一般就労へ申し込み、実際の就労に不具合が生じてしまったケースである。初職を離職後は長期間のひきこもり状態に陥っており、引きこもり期間中は複数の女性への金銭譲渡も行い、世帯の支出面を圧迫していた。

れる傾向にある。

(4) 代表ケース

図表 高齢の親と中高年の子との間の共依存問題パターンにおける代表ケース



※黄色のハッチは生活困窮に至る主要な要因、ピンクのハッチはターニングポイントを示す

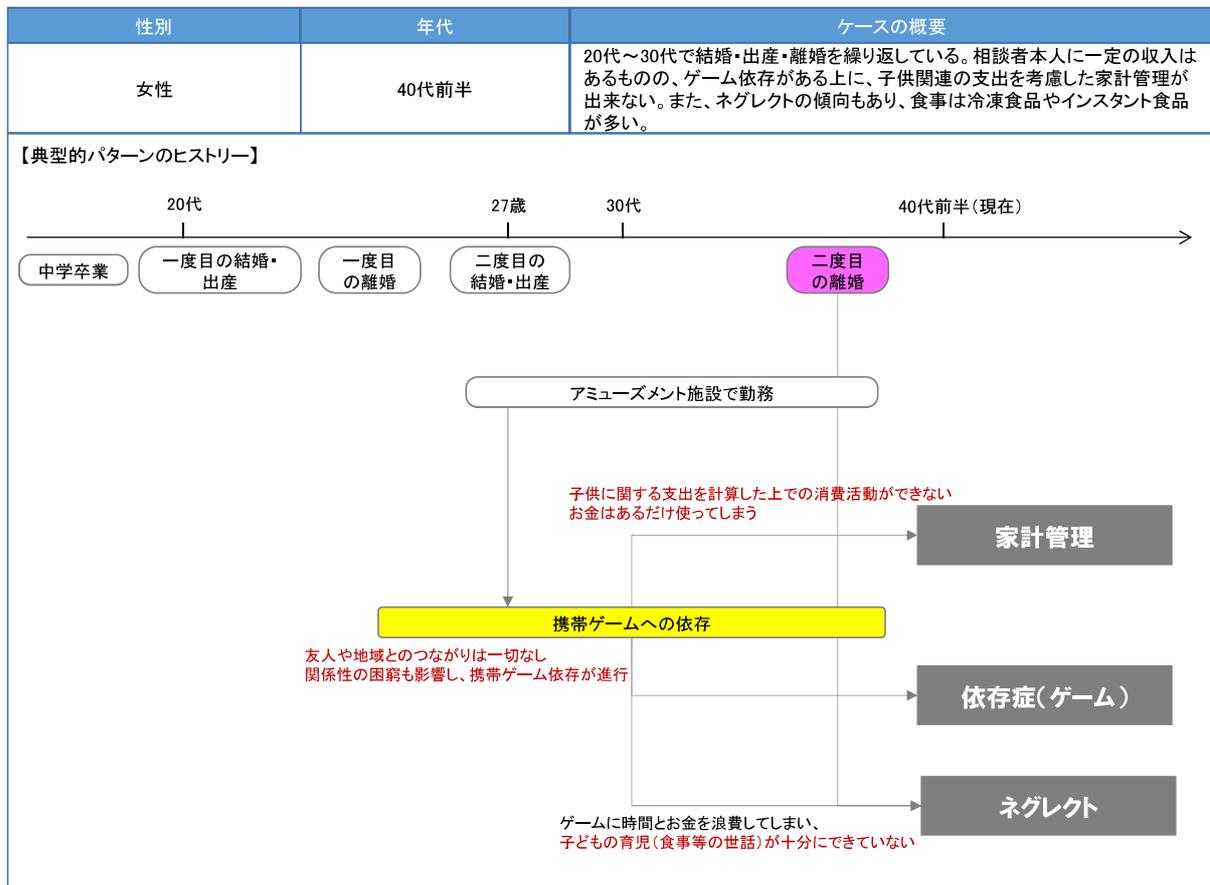
出典)野村総合研究所作成

当該ケースでは、相談者の父が他界したことがターニングポイントとなった。父の他界を機に相談者は就職を検討し始め、就職活動困難な状態が明らかとなった。長期に渡る親子間(母と息子)での共依存が、本人の主体性や自立の機会を奪っていたこと、また、ひきこもりが長期化していたこと等により、就労関連支援における就労体験にすらつながらない状況であった。

持ち家があること、母の年金(老齢+遺族)で世帯収入があったことから、本ケースの緊急性は高くなかった。そのため、本人の就労に対する危機意識も高くなく、支援により状況を改善することが困難であった。

(4) 代表ケース

図表 母子(父子)家庭の家計管理による困窮パターンにおける代表ケース



※黄色のハッチは生活困窮に至る主要な要因、ピンクのハッチはターニングポイントを示す

出典) 野村総合研究所作成

当該ケースでは、離婚がターニングポイントとなった。友人や地域とのつながりも希薄であり、携帯ゲームへの依存が深刻化したケースである。ゲーム代については、本人も把握できておらず、家計管理に大きく難がある状態であった。ゲーム代は月末になるまで正確な請求額が分からない状態であったが、途中段階でも状況を把握できる仕組みを整えることができれば、途中段階で支援をすることが可能となり、当該類型のケースにおいては有効だと考えられる。

二人の子供に対してはネグレクトの傾向があり、家庭環境・子育て面でも問題が多かった。子育て面での問題においては、給食費の滞納などの事態に関連し、学校側からの情報共有等がなされ、行政側が察知することができれば、早期の対応も可能となる。

生活困窮者支援に必要と考えられる視点 ー発達障害者への支援のあり方ー

厚生労働省 社会・援護局

障害保健福祉部 障害福祉課 障害児・発達障害者支援室

発達障害対策専門官 日詰 正文

「メンタルヘルスの配慮」が必要な人の一例

「ひきこもり」とは

○ひきこもりとは、様々な要因の結果として、社会的参加(義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など)を回避し、原則的には6か月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態。(他者と関わらない形での外出をしている場合も含む)

・ひきこもりには、確定診断がなされる前の精神障害が含まれている可能性がある。

＜思春期・青年期ひきこもりケースの背景にある精神障害の実態把握＞

- ・実施方法: H19～H21年度に、全国5か所の精神保健福祉センターにひきこもりの相談に訪れた16歳～35歳の方(本人の来談)184人に精神科的診断を実施(分担研究者: 近藤直司の調査による)
- ・結果: 診断の確定は約8割に当たる149人、情報不足等のための診断保留が35人
 - 第一群(統合失調症、気分障害等の薬物療法が中心となるもの)49人 (32.9%)
 - 第二群(広汎性発達障害や精神遅滞等の生活・就労支援が中心となるもの)48人 (32.2%)
 - 第三群(パーソナリティ障害や適応障害等の心理療法的アプローチが中心となるもの)51人 (34.2%)
 - 分類不能1人 (0.7%)

・背景にある精神障害の診断や治療だけではなく、ひきこもりがもたらす「自立過程の挫折」に対する支援も必要である。

出典 : H19～H21年度「思春期のひきこもりをもたらす精神科疾患の実態把握と精神医学的治療・援助システムの構築に関する研究」
(厚生労働科学研究 主任研究者 齋藤 万比古)

わが国の「ひきこもり」の推計数

＜把握の方法＞

全国11地域の住民から無作為に選択した4,134名を対象に、訓練を受けた調査員の戸別訪問による直接面接を実施。
(平成14年～平成17年度に、世界精神保健日本調査と合同で実施)

＜調査の結果＞

- ・対象者のうち、20～49歳の者(1,660名)の中で、過去にひきこもりを経験したことのある者 : 1.14%
- ・面接を受けた対象者全員(4,134名)の中で、現在ひきこもり状態にある子どものいる世帯 : 0.56%
(全国推計では約26万世帯)

出典 : H18年度「こころの健康についての疫学調査に関する研究」(厚生労働科学研究 主任研究者 川上 憲人 研究協力者 小山 明日香)

代表的な発達障害

それぞれの障害の特性

- 言葉の発達の遅れ
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、こだわり

知的な遅れを伴うこともあります

自閉症

広汎性発達障害

アスペルガー症候群

注意欠陥多動性障害 AD/HD

- 不注意(集中できない)
- 多動・多弁(じっとしてられない)
- 衝動的に行動する(考えるよりも先に動く)

学習障害 LD

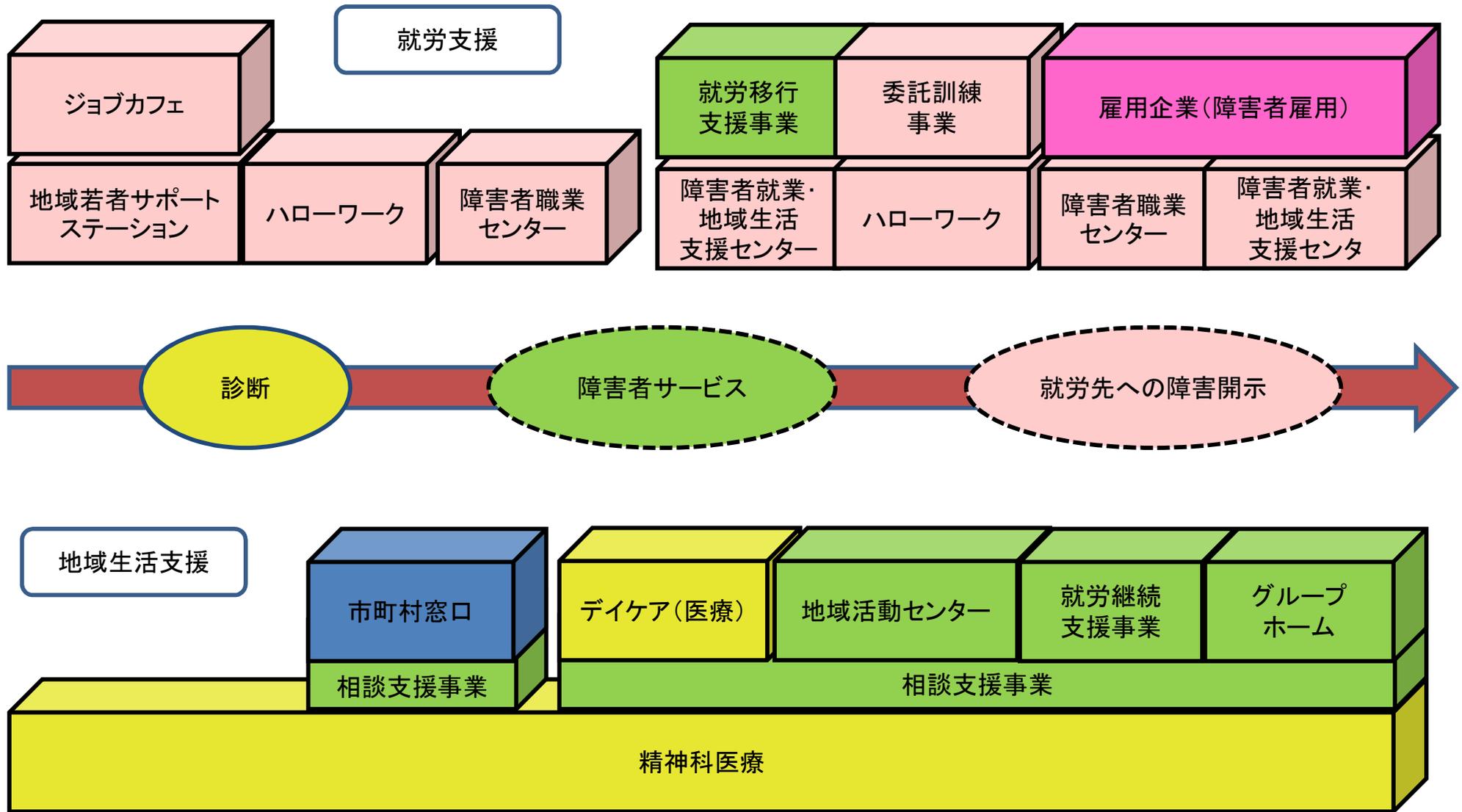
- 「読む」、「書く」、「計算する」等の能力が、全体的な知的発達に比べて極端に苦手

- 基本的に、言葉の発達の遅れはない
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、興味・関心のかたより
- 不器用(言語発達に比べて)

※このほか、トゥレット症候群や吃音(症)なども発達障害に含まれます。

発達障害者自身の情報発信と支援機関の関係

参考:平成20~22年度厚生労働科学研究「青年期・成人期の発達障害者に対する支援の現状把握と効果的なネットワーク支援についてのガイドライン作成に関する研究」
(主任研究者 近藤直司、分担研究:志賀利一)を一部改変



<聞き取りができる場合>

- (1)適切な食事摂取 .. 激しい偏食、食事量が多すぎたり少なすぎたりする

- (2)身辺の清潔保持、規則正しい生活
 - .. 予定の変更がとてつらいと感じる、仕事の優先順位がつけられない、片付けが苦手

- (3)金銭管理と買い物 .. 計算の間違い、金銭の使い過ぎなどの失敗がある

- (4)通院と服薬(要・不要) .. 採血の拒否、睡眠リズムの問題がある

- (5)他人との意思伝達・対人関係
 - .. 冗談を真に受ける、距離感がつかめず相手を怒らせる、目についたものをすぐ口に出してしまう

- (6)身辺の安全保持・危機対応 .. 行動が固まる、飛び出しがある

- (7)社会的手続きや公共施設の利用
 - .. 人混みに入れず交通機関を利用しない、窓口で順番を待てない、名前を書く欄を間違える

- (8)趣味・娯楽への関心、文化的社会的活動への参加
 - .. 興味関心が狭く友達がいない、人が怖くてひきこもりがち、など

<観察する場合>

(1)集中や注意の途切れやすさ

・・・ボーっとする、ミスが多い → 静かな環境に移動した場合はどうか、話しを細切れにしたらどうか

(2)感覚の過敏さ

・・・音や明るさ、匂いや室温などの影響 → 本人に尋ねてみたらどう答えるか

(3)記憶

・・・話しを最後まで聞かない、少し前に言ったことを聞き直す → 説明を細切れにして、その都度確認をしたらどうなるか

(4)コミュニケーション

・・・声の抑揚や、敬語の使い方の特徴がある → 見本のマネをさせてみたらどうか

(5)価値観や独特のこだわり

・・・話しが止まらない、何回も同じ話をする → ストップをかけたらどうか

(6)文字の読み書き、手先の不器用さ

・・・名前を書き間違える、ペンの持ち方が不器用 → ゆっくりで良いことを伝える、いつもはどうしているか尋ねるとどうか

障害者差別解消法 福祉事業者向け・社会保険労務士向け ガイドライン（発達障害関係箇所 抜粋）事例

- ◆ 発達障害のAさんは、就労訓練サービスを利用しています。挨拶、作業の終了時、作業中に必要と思われる会話（「おはようございます」「さようなら」「仕事が終わりました」「袋を持ってきてください」「紐を取ってください」「トイレへ行きます」「いらっしやいませ」「100円です」等）をVOCA（会話補助装置）に録音し、伝えたいメッセージのシンボル（絵・写真・文字）を押してコミュニケーションをとるようにしたことで作業に集中することができ、休みなく事業所へ通う事ができるようになりました。
- ◆ 発達障害のBさんは、利用者全体に向けた説明を聞いても、理解できないことがしばしばある方です。そのため、ルールや変更事項等が伝わらないことでトラブルになってしまうことも多々ありました。そこで、Bさんには、全体での説明の他に個別に時間を取り、正面に座り文字やイラストにして直接伝えるようにしたら、様々な説明が理解できるようになり、トラブルが減るようになりました。
- ◆ 発達障害のCさんは、就労継続支援事業を利用していますが、広い作業室の中で職員を見つけることが出来ない方でした。職員に連絡したくても連絡できず、作業の中で解らないことや聞きたいことがあってもそれが聞けず、不安や混乱が高まっていました。そこで、来所時にあらかじめCさんに職員の場所を図で示したり、現地を確認する、ユニフォームの違いを伝えるなど、職員をみつけるための手がかりを知らせておくようにしたら、Cさんは安心して作業に集中できるようになりました。
- ◆ 発達障害のDさんは文字の読み書きが苦手であり、様々な手続きの際、書類の記入欄を間違えたり、誤字を書いてしまったりして、何回も書き直さなければなりません。そこで、Dさんの相談を受けている職員は、「記入欄に鉛筆で丸をつけたり付箋を貼って示す」「書類のモデルを作成して示す」「職員が鉛筆で下書きする」などを試したところ、書類作成を失敗する回数が少なくなりました。
- ◆ 発達障害のEさんは吃音症で、会話の際に単語の一部を何度も繰り返したり、つかえてすぐに返事ができないことがあります。本来は電話をかけることは苦手なのですが、職場の悩みについてどうしても相談することが必要になったので、社会保険労務士事務所に電話をかけました。その際、相談を受けた社会保険労務士事務所の職員は、Eさんの吃音症に気づきましたが、時間がかかっても話しを急がすことなく、不快を示すこともなく、丁寧に話す内容を聞きました。そして、Eさんは、いろいろな場面で時に言われることのある「性格に問題がある」「それでは仕事にならない」という誤解や無理解からくる言葉をかけられなかったので、安心して相談をすることができました。

インシデント・プロセス法による事例検討

<メリット>

- 事例提出者は批判されず、たくさんのアイデアを迅速に集めることができ、仲間に支えられる体験ができる。
- 偉い人の話を聞かなければならないという雰囲気ではなく、自分が当事者になっているようなアイデアが出せる。
- アイデアを提供したことを感謝される機会 など

<デメリット>

- 洞察力がある専門家によるスーパーヴァイズを受けるものではないので、消化不良的なものがある。

<手順>

- ルールの説明
- メンバーの選出（事例提供者、司会、書記、検討メンバー数人）
- 事例の提出
- 情報の収集
- 視点とアイデアの提供
- ギャラリーからの補足アイデア
- 事例提供者がコメント
- おしまいの儀式

演習 1

□話しが長くて止まらない場合

* ブレーキがかかったことを評価する

演習 2

- こだわりや不安が強い場合
- * ○の台本を提案する